

# 第 3 期氷見市まち・ひと・しごと創生総合戦略及び 第 3 期氷見市人口ビジョンの策定について

---

令和 7 年 5 月 1 6 日

## 目次

- 1 第3期総合戦略の策定方針及び策定体制等について
    - (1) 策定の背景・趣旨について
    - (2) 策定方針について
    - (3) 策定体制について
    - (4) 策定スケジュールについて
  - 2 氷見市の現状・課題について
    - (1) 総人口について
    - (2) 自然動態について
    - (3) 社会動態について
    - (4) 4つの視点等について
-

# 1 第3期総合戦略の策定方針及び策定体制等について

# 1 (1) 策定の背景・趣旨について

## 策定の背景・趣旨

「地方創生」の取組が10年前に開始されて以降、人口減少や東京圏への一極集中の流れが変わるまでには至っておらず、国においては、当面は人口・生産年齢人口が減少するという事態を正面から受け止めた上で、人口規模が縮小しても経済成長し、社会を機能させる適応策を講じる必要があるとの考えのもと、「地方創生2.0」を起動させ、今後10年間で集中的に取り組み「基本構想」の策定を進めているところであり、具体的な施策を令和7年6月に取りまとめる「経済財政運営と改革の基本方針（骨太の方針）」に盛り込むこととしている。

また、富山県では、コロナ禍を経て、激甚化する自然災害や能登半島地震、人口減少など、富山県を取り巻く社会経済情勢が大きく変化するとともに、デジタル化・DXが加速する中、新たな課題に的確に対応し、新しい富山県の未来を描き、県民一人ひとりの豊かで幸せな暮らしを実現し、更なる成長と発展を目指すため、令和7年度中に次期総合計画（令和7年度から令和11年度までの5年間）を策定することとしており、県版まち・ひと・しごと創生総合戦略としても位置付け、11月には策定・公表することとしている。

本市では、「第1期氷見市まち・ひと・しごと創生総合戦略（平成27年度から令和元年度まで）」や、「第2期氷見市まち・ひと・しごと創生総合戦略（令和2年度から令和7年度まで）」に基づいて、人口減少対策や人口が減少しても幸せに暮らせるまちづくりを進めてきており、ソフト・ハード面の両面から、子育て環境の充実を図ってきたほか、移住定住施策の充実により、人口減少対策に一定の成果があったものの、若年層の進学や就職等に伴う市外への人口流出に歯止めがかかっておらず、また、出生数が引き続き減少傾向にある。

第2期総合戦略の策定後、新型コロナウイルス感染症の拡大やエネルギー価格等をはじめとした物価高騰の長期化、能登半島地震の発生、DX推進の必要性など、氷見市を取り巻く社会環境が大きく変化しており、これらの社会環境の変化に的確に対応し、人口減少を緩やかにするとともに、人口が減少したとしても幸せなまちづくりを進めるため、国や県の動向を踏まえ、オール氷見で地方創生の取組を考え、推進するため、令和7年度から令和11年度までの5年間を計画期間とした「第3期氷見市人口ビジョン」及び「第3期氷見市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定する。

# 1 (2) 策定方針について

## 第3期氷見市人口ビジョンの策定

令和2年国勢調査結果や国立社会保障・人口問題研究所が令和5年12月に発表した「日本の地域別将来推計人口（令和5年推計）令和2（2020）年～令和32（2050）年」を基に、今後目指すべき将来の方向と人口の将来展望等を示した人口ビジョン〔2050年目標〕を策定する。

## 第3期氷見市まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定

産官学金労言等の関係団体等と連携したオール氷見による総合戦略とするため、氷見市まち・ひと・しごと創生推進協議会のもとに、若者や女性を中心とした専門部会を設置し、議論を深め、5年間（令和7年度～令和11年度）の基本目標や施策の基本的方向、具体的な取組等をまとめた創生総合戦略を策定する。

人口減少に歯止めをかけ将来の人口構造を変える「積極戦略」と、人口が減少しても幸せに暮らせるまちづくり「調整戦略」の両方の観点に基づき、国の地方創生2.0の基本構想等や県の次期総合計画を踏まえて、以下の4つの方向性のもと策定を進め、第9次氷見市総合計画前期基本計画との整合を図り、後期基本計画の策定にも活かしていく。

### ① 仕事をつくる

中小・中堅企業DX、地域の良質な雇用の創出等、スマート農業、観光DX等

### ② 人の流れをつくる

移住の推進、関係人口の創出・拡大等

### ③ 結婚・出産・子育ての希望をかなえる

結婚・出産・子育ての支援、少子化対策の推進等

### ④ 魅力的な地域をつくる

地域生活圏、教育DX、医療・介護DX、地域交通・物流・インフラDX、防災DX等

横断的な取り組みについて

SDGs推進、カーボンニュートラル、DX推進、アンコンシャス・バイアス解消、多様な人材の活用

# 1 (3) 策定体制について

## 氷見市まち・ひと・しごと推進協議会

(委員27名：住民、産業界、教育機関、行政機関、金融機関、労働団体、メディア機関などの代表者で構成)

### ○目的

市民、一人ひとりが危機感を持って、人口減少を克服し、将来にわたって活力ある地域を維持することを目的し、地域の各機関・団体などの幅広い参画によるパートナーシップのもと一体となって総合戦略の推進を図るため、総合戦略及び評価案の検討を行う。

### 専門部会 9名+市職員(5名)

○内容： 各テーマに関連する市内関係団体の担当者レベル + 若手市職員  
総合戦略の柱となる事項ごとに部会を設け、市の将来像や施策の方向性、施策等を考え、市民の一人ひとりがプレーヤーとなるオール氷見の総合戦略の取組案を検討する。

- |         |           |                  |                 |
|---------|-----------|------------------|-----------------|
| 1<br>仕事 | 2<br>人の流れ | 3<br>結婚出産<br>子育て | 4<br>魅力的な<br>地域 |
|---------|-----------|------------------|-----------------|

### その他、市民からの意見聴取

- ・市民アンケート、高校生アンケート
- ・氷見まちづくり議会
- ・ひみ未来づくりミーティング
- ・ぶり奨学プログラム交流会
- ・パブリックコメント

意見・連携



パートナーシップ



参加依頼・意見聴取

参加・会議補助



意見反映

## (庁内) 氷見市まち・ひと・しごと創生本部

### ○構成

本部長 : 市長  
副本部長 : 副市長  
本部員 : 教育長及び各部長等

### ○目的

人口減少を克服し、将来にわたって活力ある地域を維持することを目的し、総合戦略の策定、推進、評価に当たり全庁的に取り組む。

### 関係課

○専門部会への参加、会議補助など

### 未来戦略課

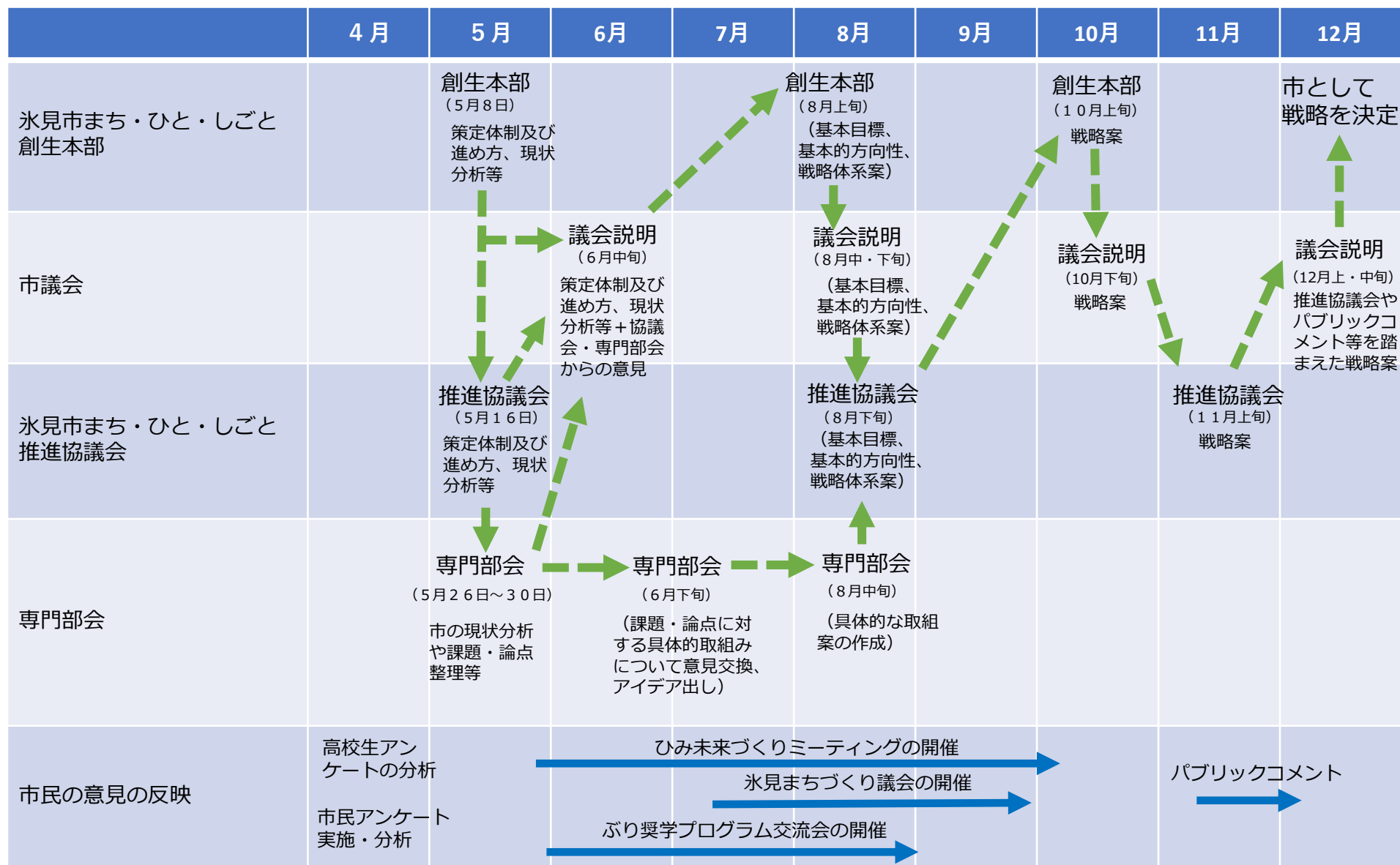
○企画、庶務、日程調整など



説明等

市議会

# 1 (4) 策定スケジュールについて

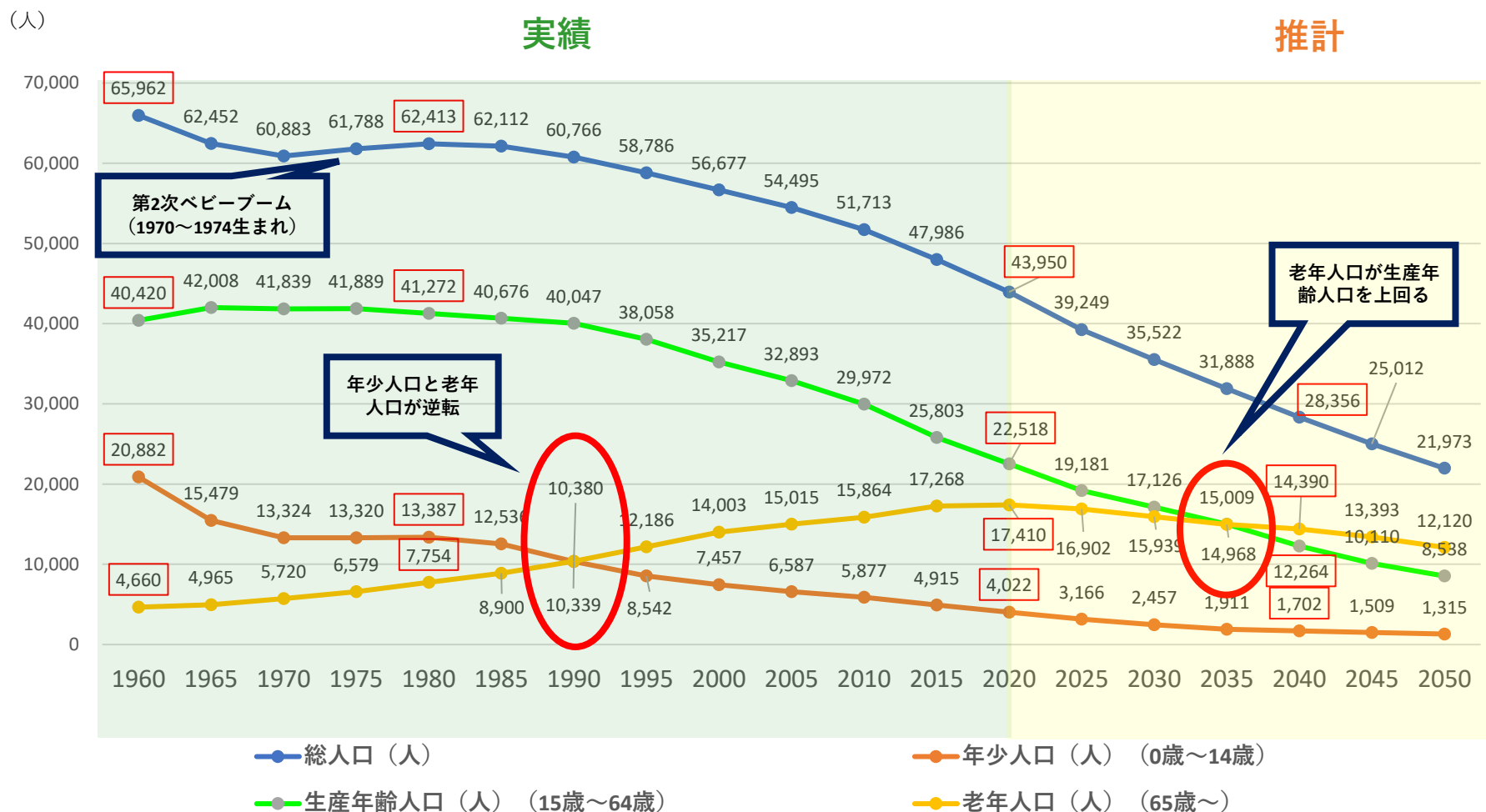


## 2 氷見市の現状・課題について

## 2 (1) 総人口について ①総人口・年齢3区分人口の推移

### ◆総人口・年齢3区分人口（年少人口、生産年齢人口、老年人口）の推移

氷見市の人口は、第2次ベビーブームでいったん増加傾向がみられたものの、減少の一途をたどっている。1990年には年少人口と老年人口が逆転し、2035年には老年人口が生産年齢人口を上回り、2050年までその傾向は続くという推計となっている。

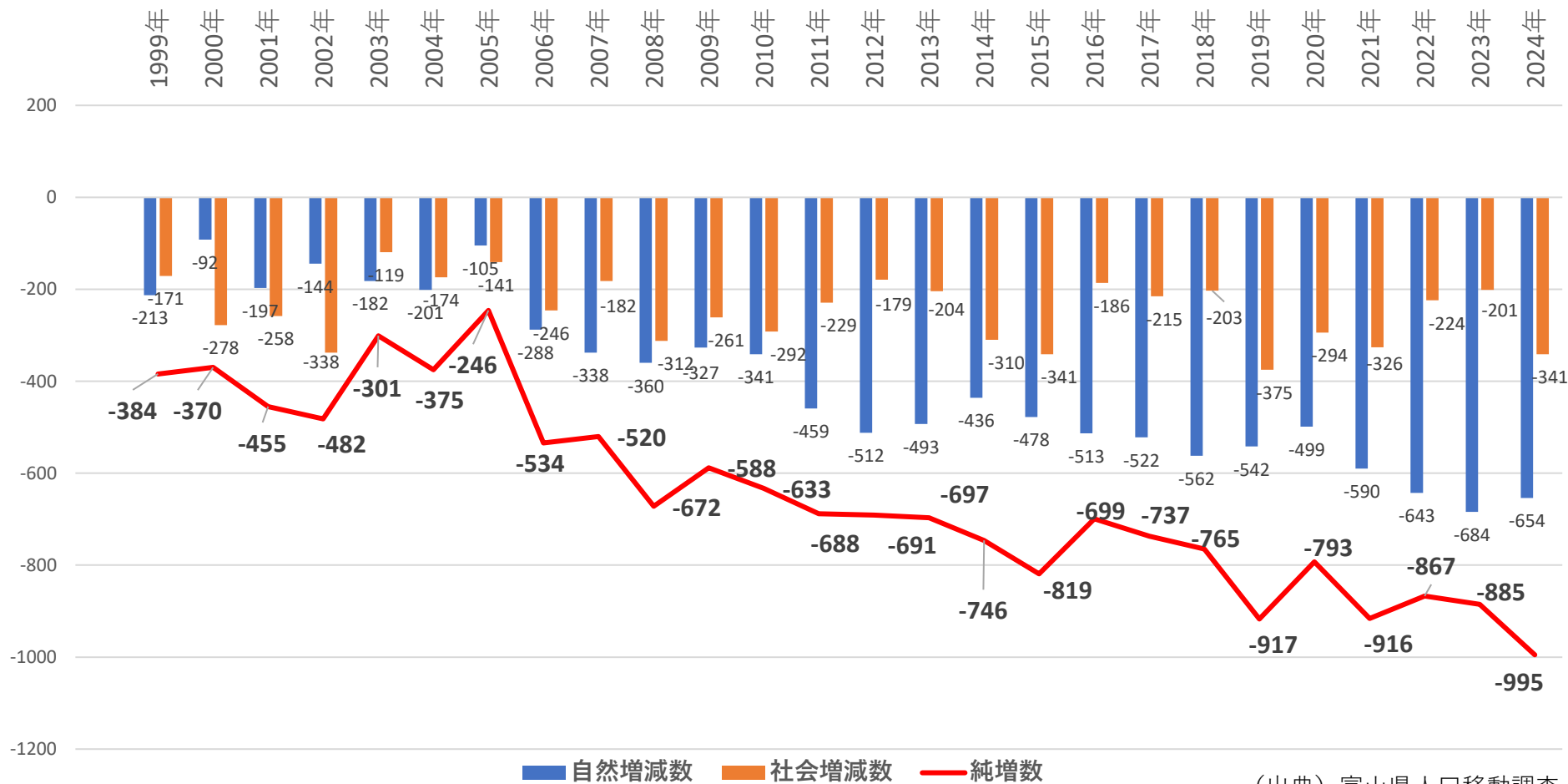


(出典) 昭和25~令和2年国勢調査、令和2年国勢調査基準社人研推計

## 2 (1) 総人口について ②総人口、自然動態及び社会動態の推移

### ◆総人口、自然動態及び社会動態の推移

自然動態、社会動態ともに減少が続いており、特に2011年以降からは自然動態による減少が著しくなっている。

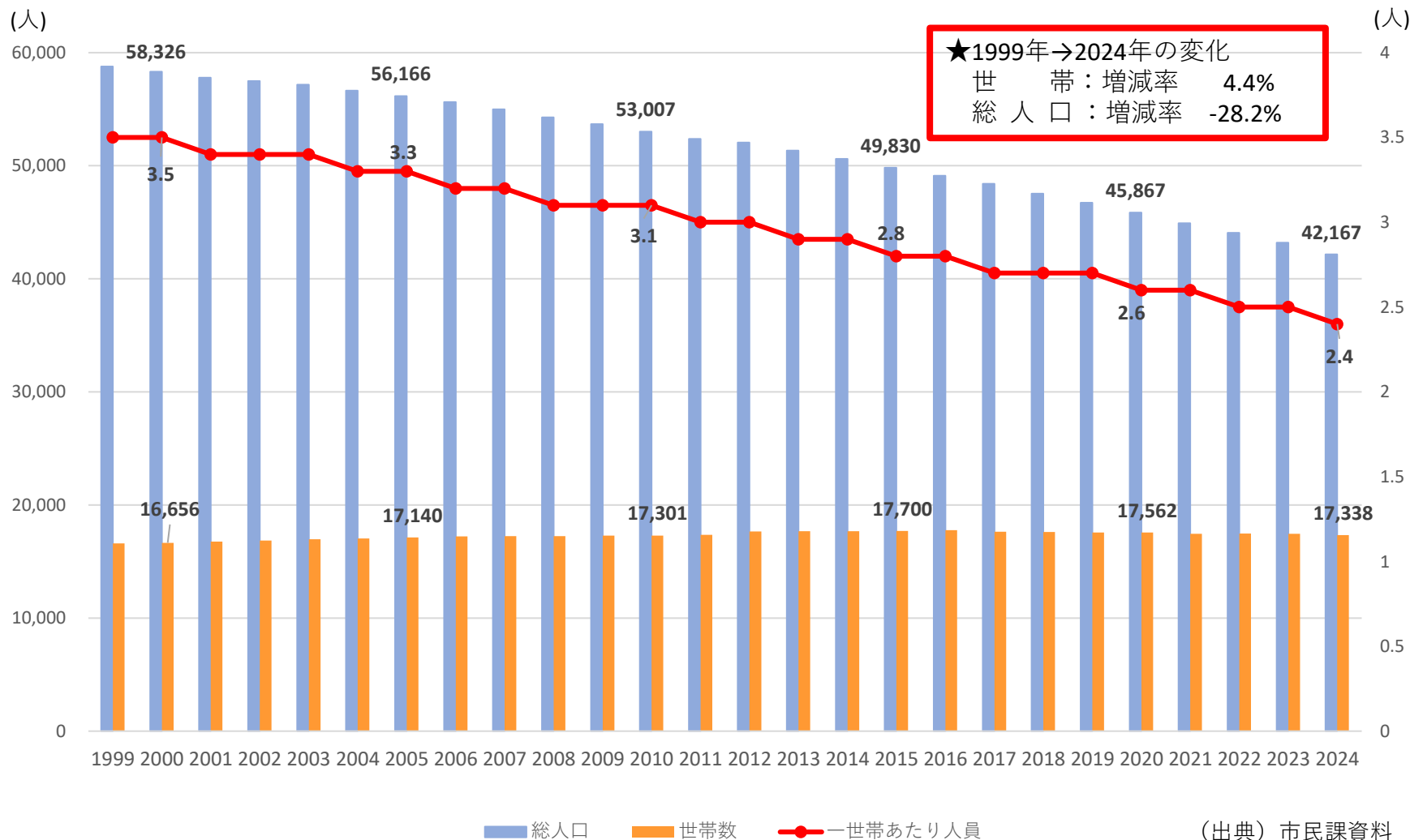


(出典) 富山県人口移動調査

## 2 (1) 総人口について ③世帯数の推移

### ◆世帯数の推移

総人口が減少を続けているのに対し、世帯数については増減はあるものの微増している。1世帯あたりの人員数は減少してきており、今後もこの傾向は続くと思われ、核家族化や高齢者のひとり暮らし世帯の増加が見込まれるとともに、空き家の増加につながる懸念される。

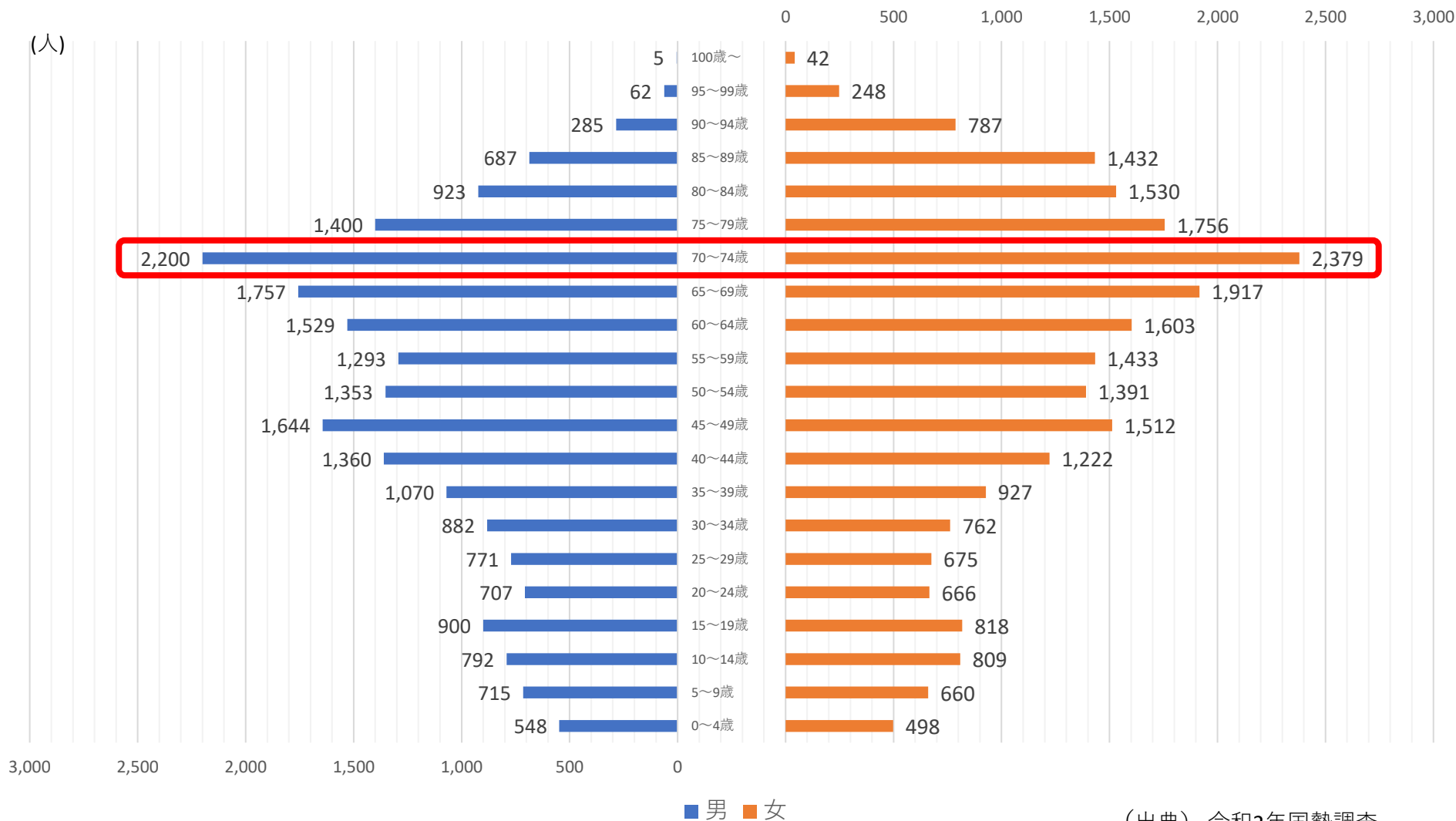


(出典) 市民課資料

## 2 (1) 総人口について ④人口構造

### ◆人口構造

人口構造は、70～74歳層がボリュームゾーンとなっており、当面は高齢者層がボリュームゾーンとなっていくことが予想される。



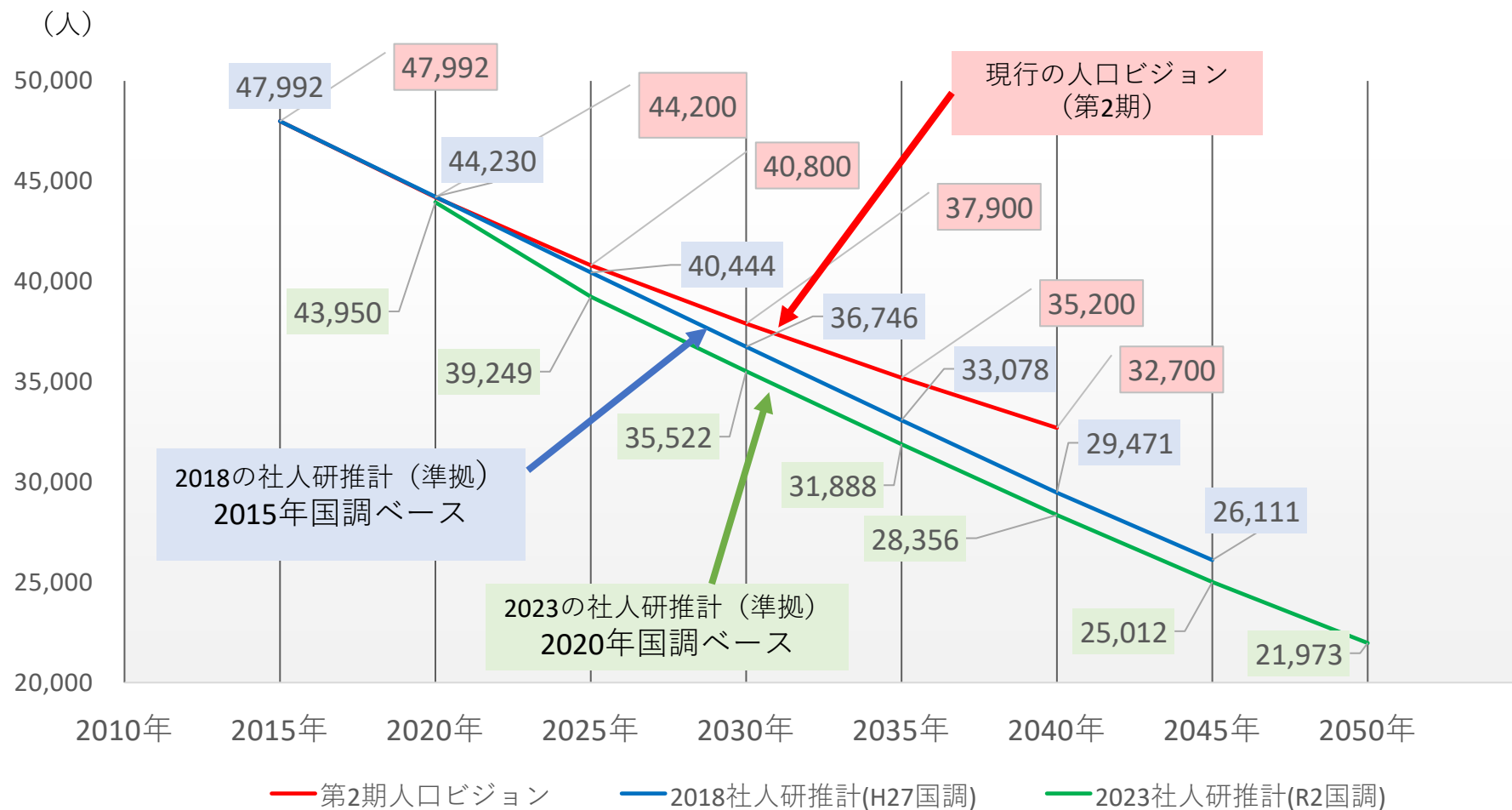
(出典) 令和2年国勢調査

## 2 (1) 総人口について ⑤第2期人口ビジョンと2018年・2023年社人研推計との比較

### ◆第2期人口ビジョンと2018年・2023年社人研推計との比較

第2期人口ビジョンは、2018年社人研推計を基にして目標値を設定したが、2025年では目標の40,800人に対して、直近の県人口移動調査結果（2025年4月1日時点）では39,711人となっている。

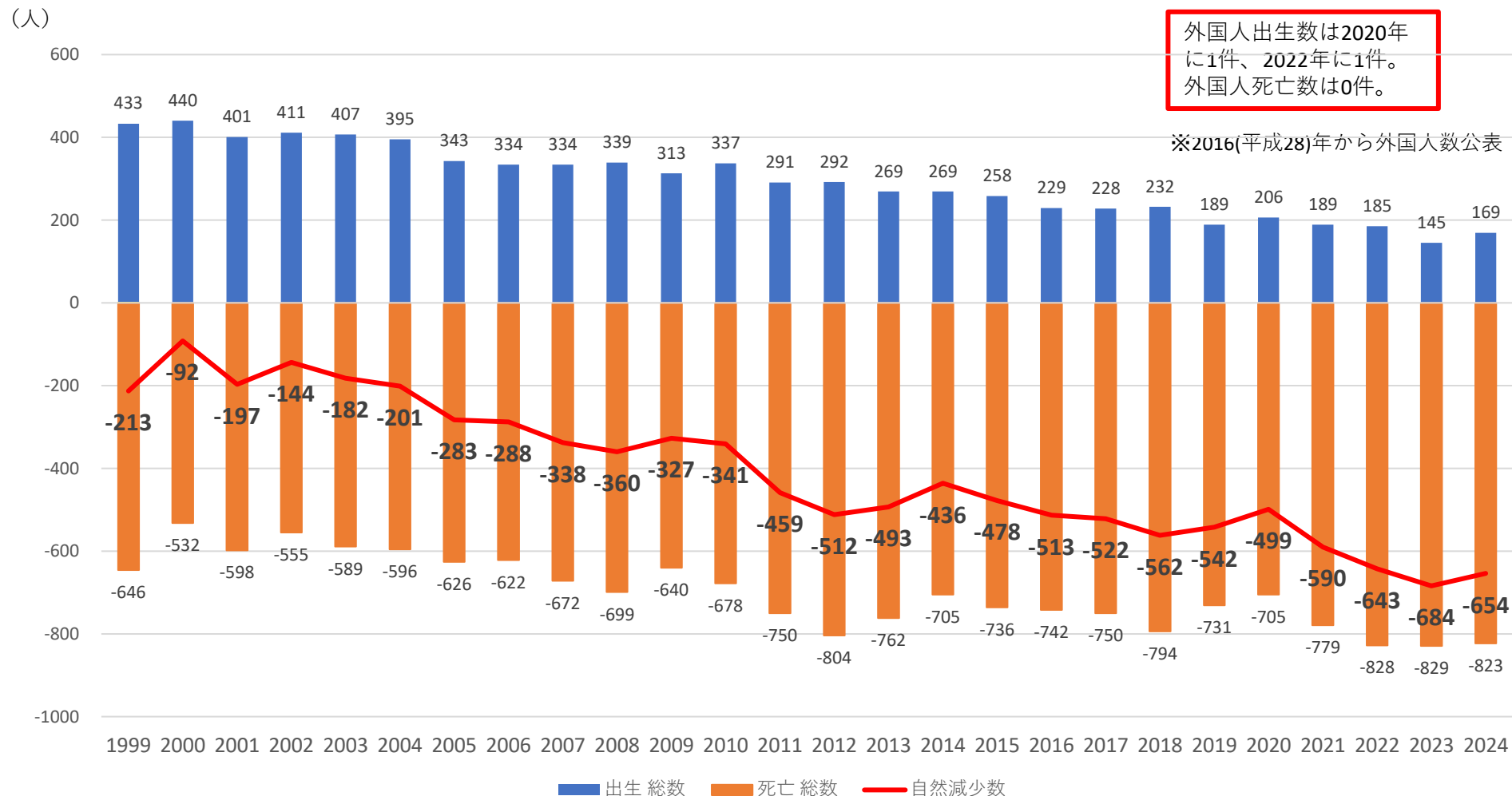
また、2023年社人研推計では、第2期人口ビジョンとの乖離が年々大きくなっており、第3期人口ビジョン及び総合戦略の策定にあたっては、市民一人ひとりが危機感を持って、地方創生を自分事として取り組んでいかなければならない。



## 2 (2) 自然動態について

### ◆出生数と死亡数の推移

死亡数が出生数を大幅に上回っており、自然減が続いている。また、2021年以降は出生数200人以下が続いているとともに、高齢化が進み死亡数も増加傾向にあることから、減少傾向に歯止めがかかっていない。



(出典) 富山県人口移動調査

## 2 (3) 社会動態について

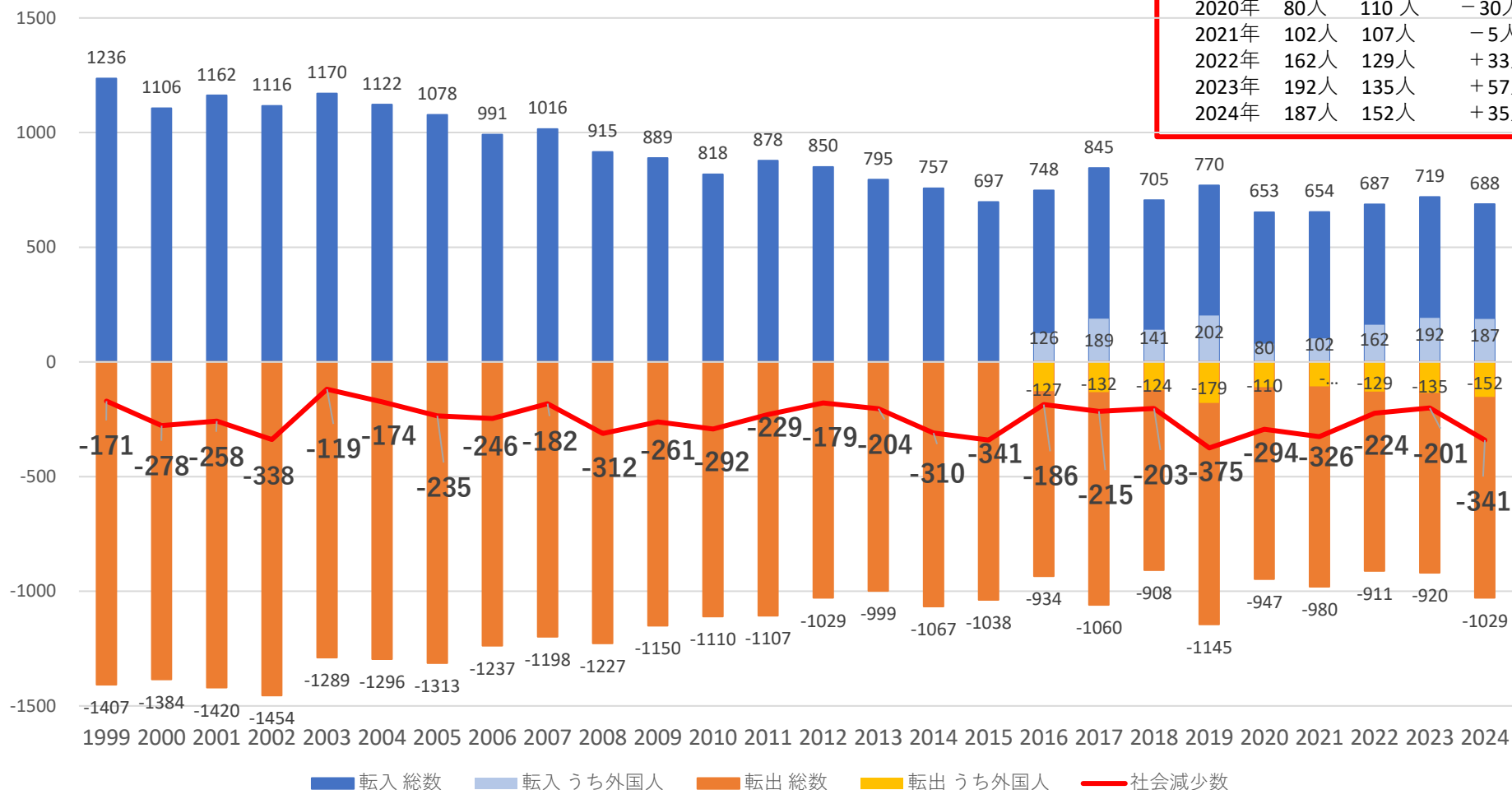
### ◆転入者と転出者の推移

転出超過の状態が続いているが、外国人はコロナ禍の影響を除けば転入超過の状態が続いている。また、今後は能登半島地震の影響により転出の増加が懸念される。

### 外国人の転出・転入について

	転入	転出	転入超過
2016年	126人	127人	-1人
2017年	189人	132人	+57人
2018年	141人	124人	+17人
2019年	202人	179人	+23人
2020年	80人	110人	-30人
2021年	102人	107人	-5人
2022年	162人	129人	+33人
2023年	192人	135人	+57人
2024年	187人	152人	+35人

(人)



(出典) 富山県人口移動調査：10～9月  
※2016(平成28)年から外国人数公表

## 2 (4) 4つの視点等について ①仕事をつくる

### ◆産業分類別就業者数の推移

15歳以上の就業者数は1,759人減少しており、男女別では男性が1,124人減少、女性が635人減少している。

産業分類別では、第1次産業が139人減少（男性△89人、女性△50人）、第2次産業が858人減少（男性△638人、女性△220人）、第3次産業が762人減少（男性△397人、女性△365人）となっている。業種別では、製造業が691人減少（男性△456人、女性△235人）、卸売業・小売業が328人減少（男性△161人、女性△167人）、宿泊業・飲食サービス業が213人減少（男性△33人、女性△180人）が主なものとなっている。

平成27年国勢調査

(単位：人)

	15歳以上 就業者数	1次産業		2次産業			3次産業														
		A 農業、林業	B 漁業	C 鉱業、採石業、砂利採取業	D 建設業	E 製造業	F 電気・ガス・熱供給・水道業	G 情報通信業	H 運輸業、郵便業	I 卸売業、小売業	J 金融業、保険業	K 不動産業、物品賃貸業	L 学術研究、専門・技術サービス業	M 宿泊業、飲食サービス業	N 生活関連サービス業、娯楽業	O 教育、学習支援業	P 医療、福祉	Q 複合サービス事業	R サービス業（他に分類されないもの）	S 公務（他に分類されるものを除く）	T 分類不能の産業
男	12,840	571	184	9	1,569	4,107	110	116	1,000	1,507	136	79	214	366	259	312	532	297	767	400	305
女	10,898	261	14	-	290	2,085	22	46	128	1,863	245	47	143	937	530	543	2,650	220	406	219	249
総数	23,738	832	198	9	1,859	6,192	132	162	1,128	3,370	381	126	357	1,303	789	855	3,182	517	1,173	619	554
産業分類別就業者数		1,030		8,060			14,648														

令和2年国勢調査

(単位：人)

	15歳以上 就業者数	1次産業		2次産業			3次産業														
		A 農業、林業	B 漁業	C 鉱業、採石業、砂利採取業	D 建設業	E 製造業	F 電気・ガス・熱供給・水道業	G 情報通信業	H 運輸業、郵便業	I 卸売業、小売業	J 金融業、保険業	K 不動産業、物品賃貸業	L 学術研究、専門・技術サービス業	M 宿泊業、飲食サービス業	N 生活関連サービス業、娯楽業	O 教育、学習支援業	P 医療、福祉	Q 複合サービス事業	R サービス業（他に分類されないもの）	S 公務（他に分類されるものを除く）	T 分類不能の産業
男	11,716	504	162	8	1,388	3,651	82	109	950	1,346	112	71	213	333	217	292	560	203	761	377	377
女	10,263	213	12	-	305	1,850	22	50	146	1,696	219	72	147	757	463	540	2,647	186	415	234	289
総数	21,979	717	174	8	1,693	5,501	104	159	1,096	3,042	331	143	360	1,090	680	832	3,207	389	1,176	611	666
産業分類別就業者数		891		7,202			13,886														

増 減

(単位：人)

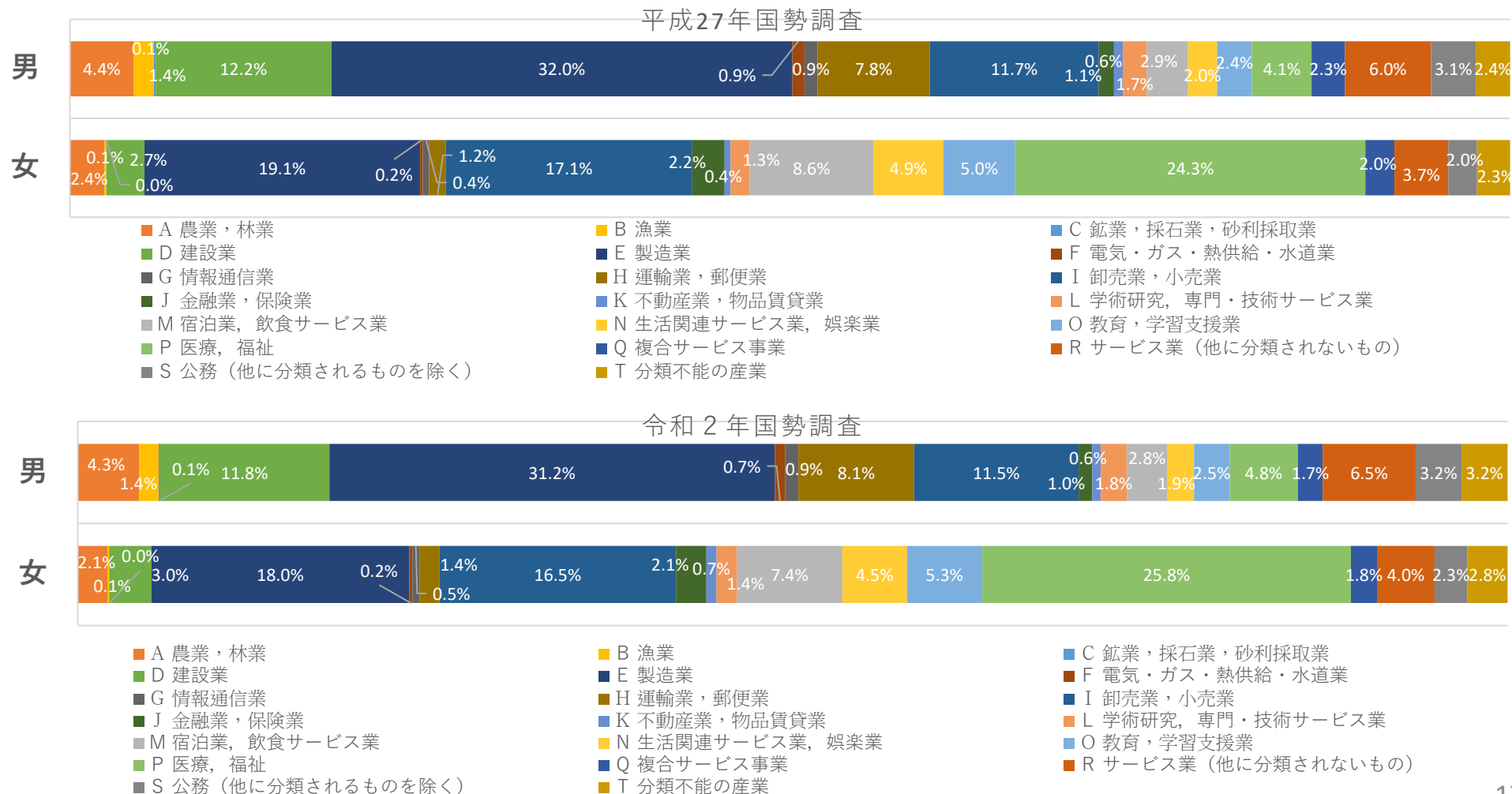
	15歳以上 就業者数	1次産業		2次産業			3次産業														
		A 農業、林業	B 漁業	C 鉱業、採石業、砂利採取業	D 建設業	E 製造業	F 電気・ガス・熱供給・水道業	G 情報通信業	H 運輸業、郵便業	I 卸売業、小売業	J 金融業、保険業	K 不動産業、物品賃貸業	L 学術研究、専門・技術サービス業	M 宿泊業、飲食サービス業	N 生活関連サービス業、娯楽業	O 教育、学習支援業	P 医療、福祉	Q 複合サービス事業	R サービス業（他に分類されないもの）	S 公務（他に分類されるものを除く）	T 分類不能の産業
男	△ 1,124	△ 67	△ 22	△ 1	△ 181	△ 456	△ 28	△ 7	△ 50	△ 161	△ 24	△ 8	△ 1	△ 33	△ 42	△ 20	28	△ 94	△ 6	△ 23	72
女	△ 635	△ 48	△ 2	-	15	△ 235	0	4	18	△ 167	△ 26	25	4	△ 180	△ 67	△ 3	△ 3	△ 34	9	15	40
総数	△ 1,759	△ 115	△ 24	△ 1	△ 166	△ 691	△ 28	△ 3	△ 32	△ 328	△ 50	17	3	△ 213	△ 109	△ 23	25	△ 128	3	△ 8	112
産業分類別就業者数		△ 139		△ 858			△ 762														

(出典) 平成27年、令和2年国勢調査

## 2 (4) 4つの視点等について ①仕事をつくる

### ◆産業分類別就業者の割合の推移

第1次産業の就業者割合は男性が5%台、女性が2%台と低く、第2次産業では男性が40%台、女性が20%台、第3次産業では男性が50%台、女性が70%台となっている。また、業種別では男性が製造業、建設業、卸売業の順に高く、女性は医療・福祉、製造業、卸売業の順に高くなっており、全体では製造業、医療・福祉、卸売業で約5割を占めている。



(出典) 平成27年、令和2年国勢調査

## 2 (4) 4つの視点等について ①仕事をつくる

### ◆氷見市内の事業所数と納税義務者1人当たりの所得額の推移

市内の事業所は減少が続いている。また、市内の納税義務者1人当たりの所得額についても令和3年以降は減少が続いている。新型コロナウイルス感染症の拡大による廃業等により、営業所得が減少したことなどが考えられる。

氷見市内の事業所数の推移

	事業所数
平成24年	2,369
平成28年	2,195
令和3年	2,041

(出典) 平成24年、平成28年、令和3年経済センサス(活動調査)

氷見市内の納税義務者1人当たりの所得額の推移

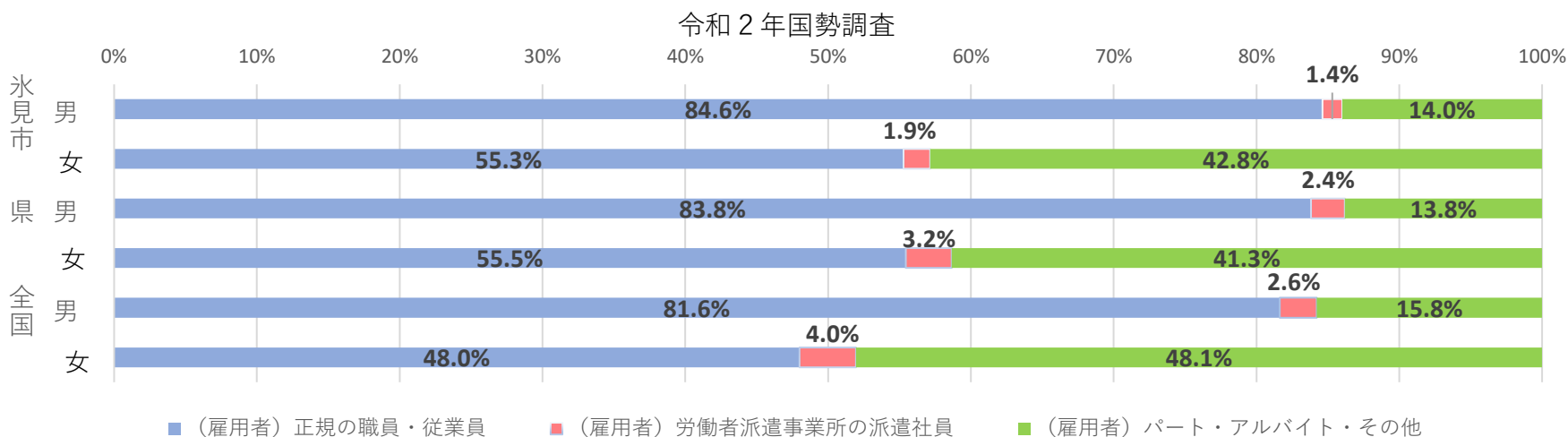
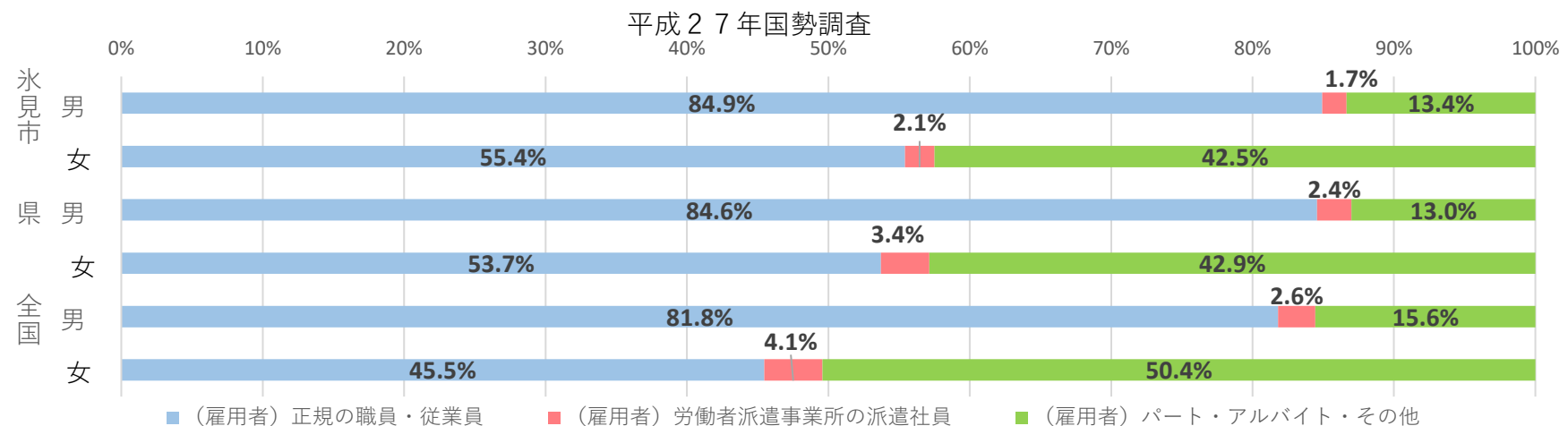
	1人当たりの所得額
令和2年度	266万円
令和3年度	271万円
令和4年度	254万円
令和5年度	247万円

第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略における重要目標達成指標 (KGI)

## 2 (4) 4つの視点等について ①仕事をつくる

### ◆正規・非正規労働者割合の推移

男性、女性ともに正規労働者の割合は全国平均より高く、県平均並みとなっている。女性の正規労働者の割合は、令和2年国勢調査では55.3%で全国平均の48%を上回っているが、男性と比較するとまだまだ非正規労働者の割合が高く、子育てや介護などの家庭事情による仕事との両立が難しいといったケースが考えられる。また、近年は「自分の都合の良い時間に働きたい」という働き方の多様化が進んでいることも考えられる。

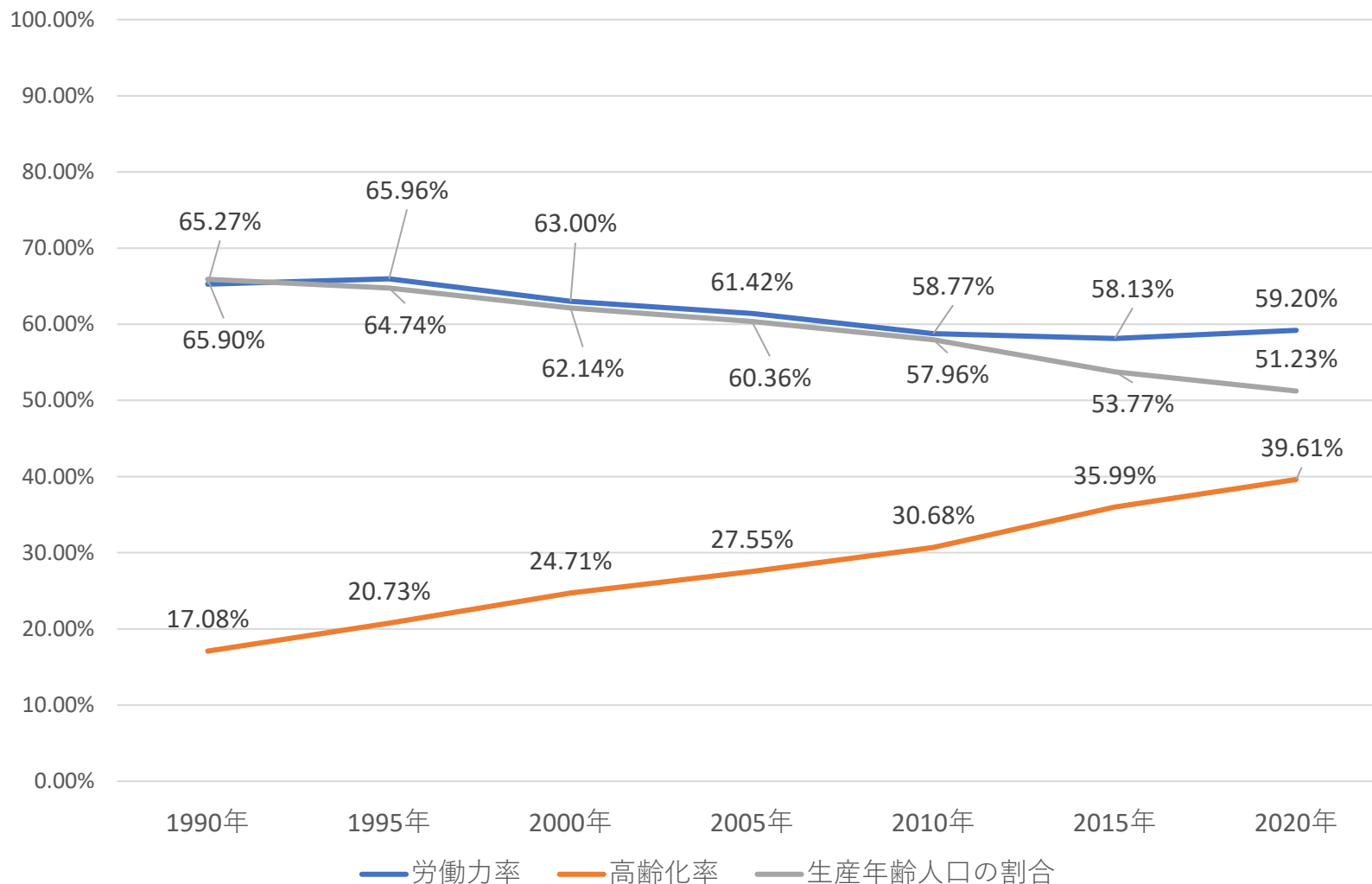


(出典) 平成27年、令和2年国勢調査(就業状態等基本集計)

## 2 (4) 4つの視点等について ①仕事をつくる

### ◆労働力率の推移

2010年までは労働力率と生産年齢人口の割合は、同様な傾向で推移してきたが、2015年以降、労働力率は上昇している。生産年齢人口の割合が減少しているが、年金支給の延長や定年延長などの影響により、高齢者の就業率が上昇していると考えられる。



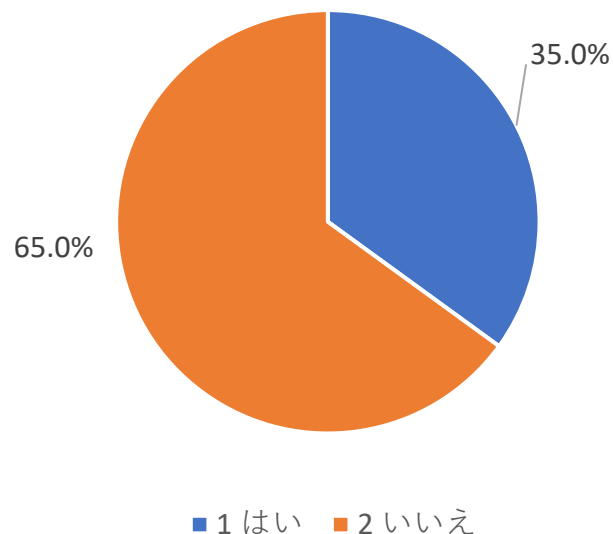
(出典) 平成2年～令和2年国勢調査(就業状態等基本集計)

## 2 (4) 4つの視点等について ①仕事をつくる

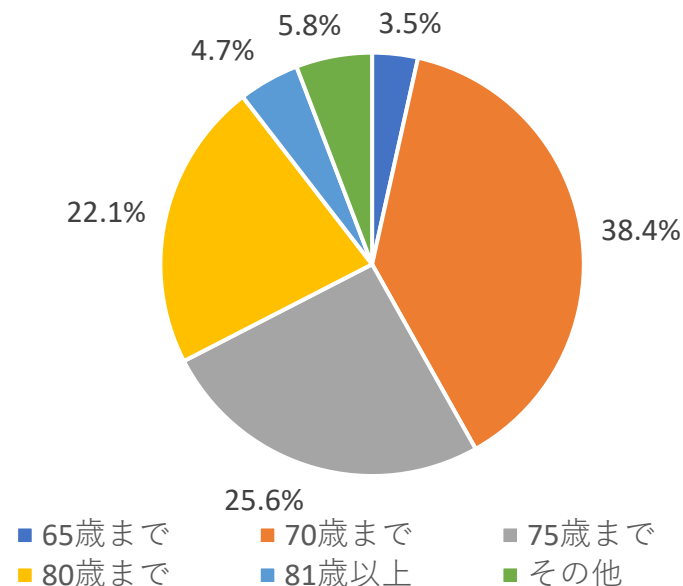
### ◆高齢者の労働意欲【令和6年度市民アンケート結果より】

65歳以上で、現在働いている方が35%であり、「何歳まで働きたいですか」の問いに対して、「70歳まで」は38.4%、「75歳まで」は25.6%、「80歳まで」は22.1%、「81歳以上」が4.7%であり、少なくとも70歳までは働きたいと考えている（もしくは働いている）人は全体の90%以上、75歳までと考える人も50%以上を占めている。

ノ 現在働いていますか。  
(65歳以上の方のみ)



ハ 何歳まで働きたいですか。  
(65歳以上で、現在働いている方)



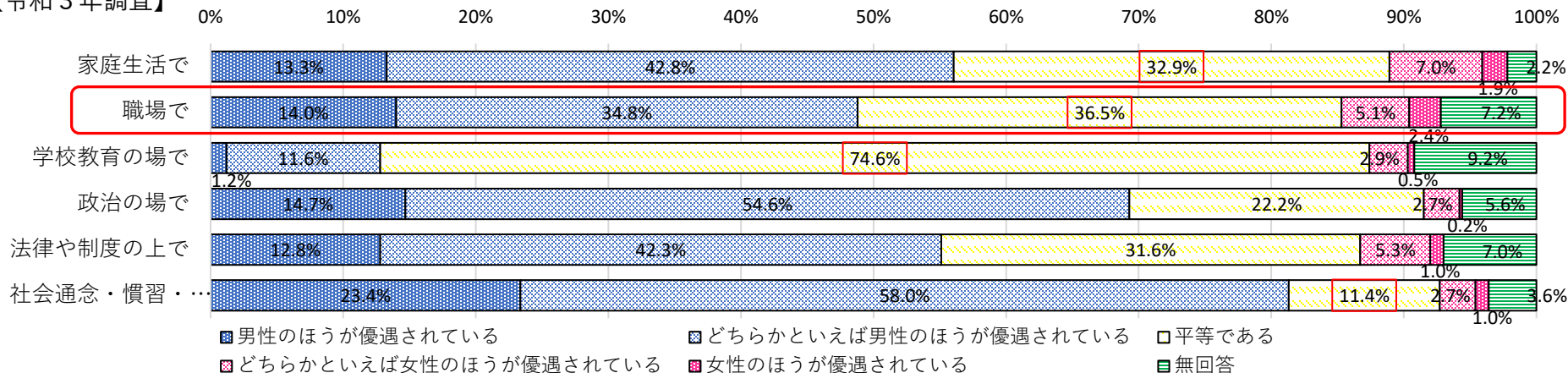
## 2 (4) 4つの視点等について ①仕事をつくる

### ◆男女の地位の平等感について【令和3年度・5年度男女共同参画に関する市民アンケート結果より】

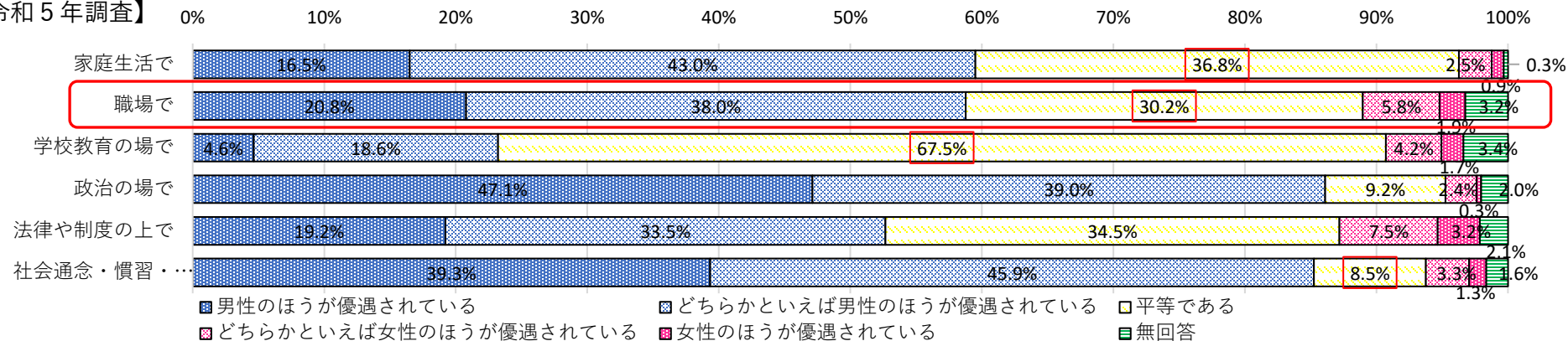
職場では、「男性の方が優遇されてる」が48.8%から58.8%に増加、「平等である」が36.5%から30.2%に減少しており、職場での男女の地位の平等は進んでおらず、未だに男性優遇が残っていると考えられる。

問2 あなたは、次にあげるような分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。

【令和3年調査】



【令和5年調査】



## 2 (4) 4つの視点等について ①仕事をつくる

### 現状・課題

- ・産業分類別就業者の割合が第1次産業では4%台と低く、女性では医療・福祉が女性就業者の約4分の1を占めている。
- ・コロナ禍等の影響もあり、市内事業所数や納税義務者1人当たりの所得額は減少傾向にある。
- ・正規労働者の割合は、全国平均を上回っているものの、男性と比較すると、女性の非正規労働者の割合は高く、仕事と家庭の両立が難しいといったことが考えられる。
- ・生産年齢人口の割合が減少しているが、労働力率は上昇しており、年金支給の延長や定年延長などの影響により、高齢者の就業率が上昇していると考えられることから、高齢者の働きやすい雇用形態を増やす必要がある。
- ・市民アンケート結果では、65歳以上で働いている人の勤労意欲が高い。
- ・外国人の転入超過が続いているので、労働力を確保するため外国人の職場環境を整える必要がある。
- ・市民アンケート結果では、職場における男女の地位の平等が進んでいない。

### 市の取組と実績

#### 【R2からR5までの進捗などについて】

- ・地域内経済循環促進事業：商品券・電子通貨の販売額（R7目標:80,000千円⇒24,506千円）
- ・創業・継業支援事業：創業継業件数累計（R7目標:60件⇒51件）
- ・まちなか活性化事業：まちなか出店累計件数（R7目標:33件⇒39件）  
ヒミビズへの年間相談件数（R7目標1,000件⇒1,098件）
- ・企業立地推進事業：企業立地助成金交付件数（R7目標:4件⇒0件）
- ・大浦第2工業団地造成事業
- ・持続可能な農業経営支援事業：集落営農組合組織化件数（R7目標:42団体⇒42団体）
- ・ワインバレー構想活性化事業
- ・持続可能な森林経営支援事業：地場産木材の生産量（R7目標:20,800m<sup>2</sup>⇒14,371m<sup>2</sup>）
- ・浜の活性化事業（キンザケ養殖）

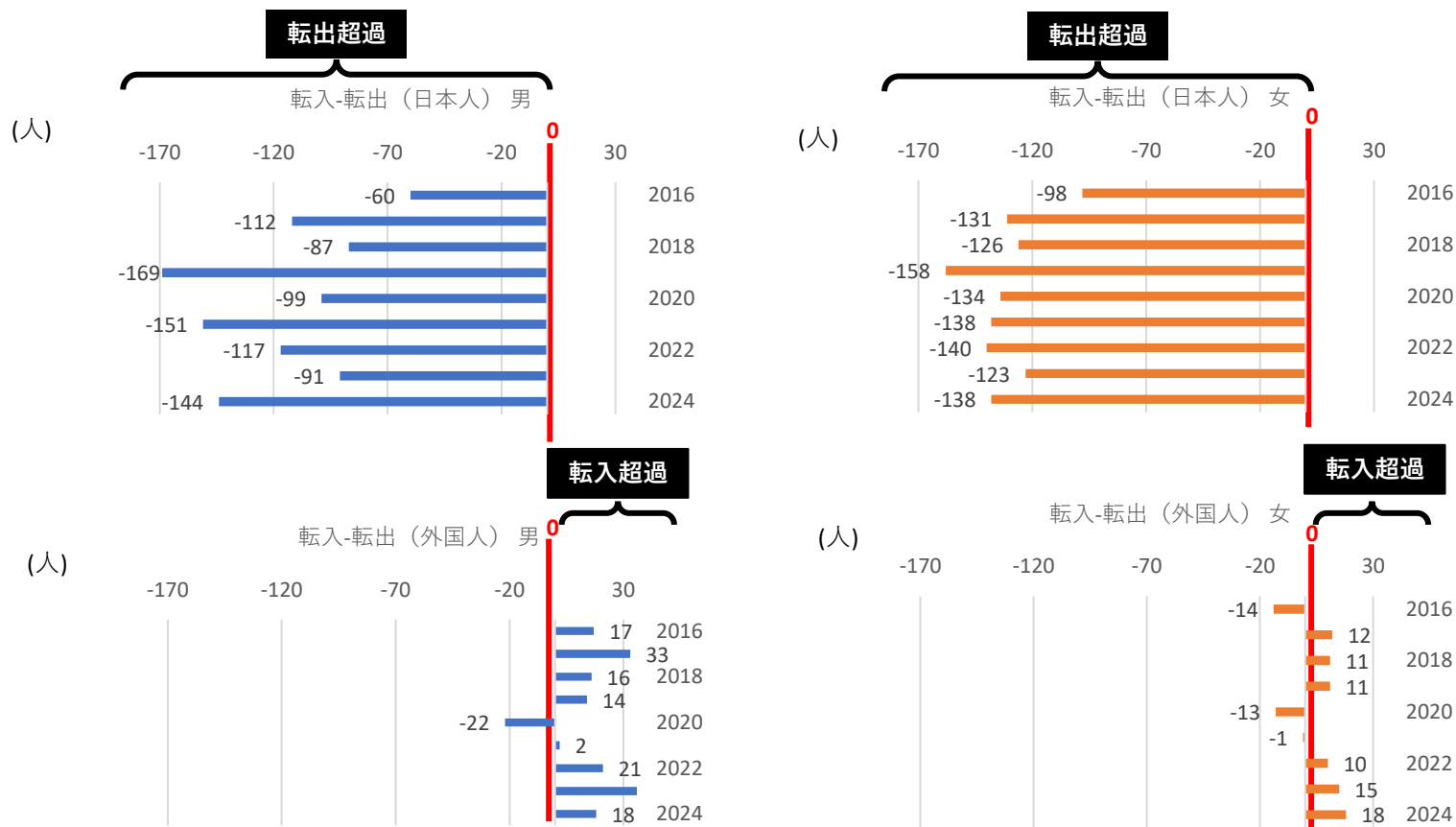
#### 【取組の満足度（市民アンケート結果）】

- ・商工業0.2%、雇用0.1%、観光7.0%、農林水産業2.6%

## 2 (4) 4つの視点等について ②人の流れをつくる

### ◆15～39歳の社会動態の推移

15～39歳の社会動態は、男女ともに転出超過の状況が続いている。男性は年によって増減があるが、女性は毎年100人以上の転出超過が続いている。一方で、外国人は転入超過の傾向がある。

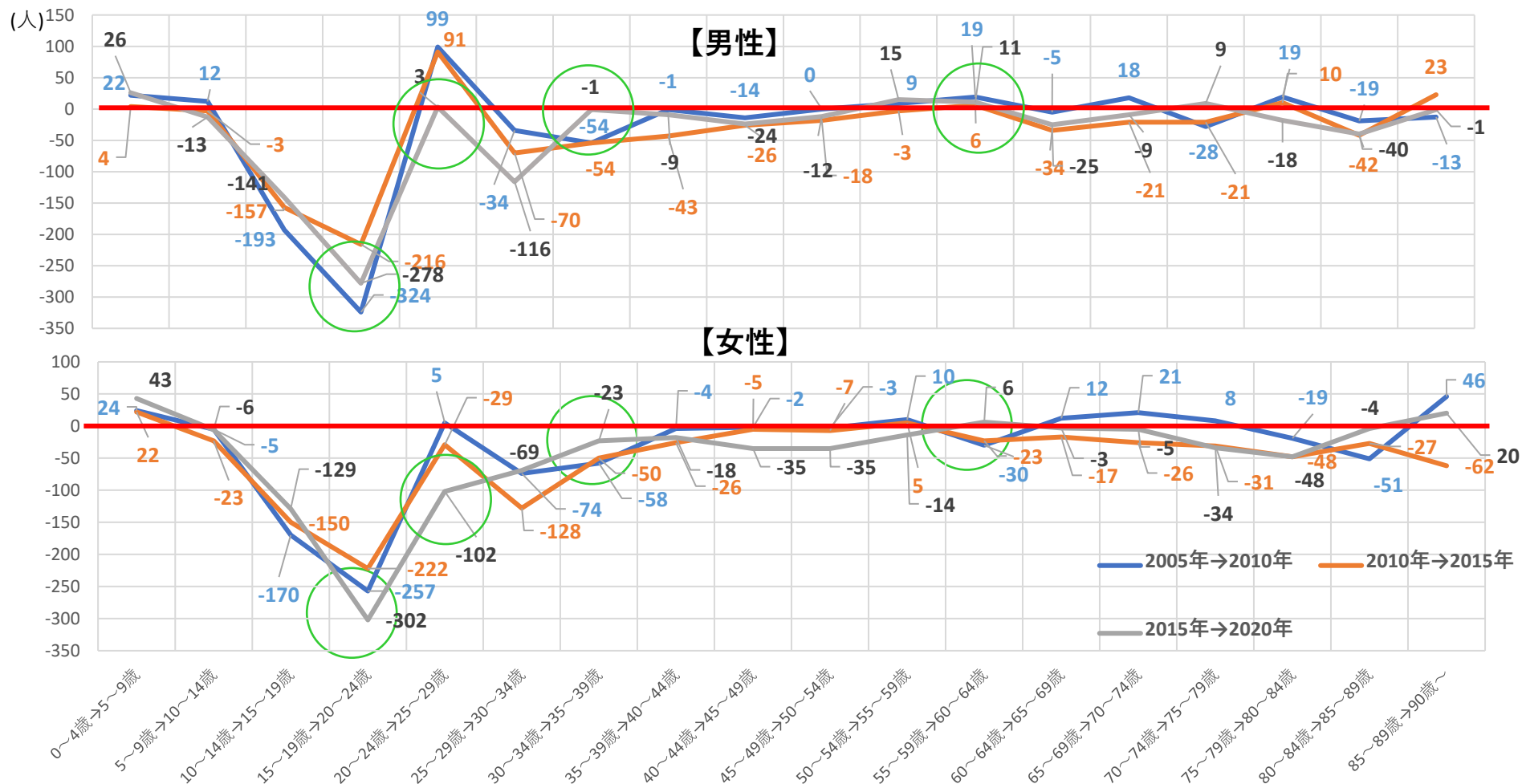


(出典) 富山県人口移動調査

## 2 (4) 4つの視点等について ②人の流れをつくる

### ◆年齢階級別純移動数（ある年齢幅の人数が5年後にどれくらい増減があったかを示すもの）

男性、女性とも15～19歳の方が20～24歳になったときに谷が大きくなっており、大学等の進学期でもあることから、転出数が多いということが考えられる。その後、20～24歳の方が25～29歳になったときに山型になっているが、男性はプラスに転じる時期があるものの、女性は増減はありつつマイナスのままである。本来なら大学卒業後に戻ってくるはずだった20～24歳層→25～29歳層の女性たちが戻ってこなかったと考えられる。2015年→2020年では、過去10年と比べて35～39歳が男女ともに転出超過が減っており、子育て世代の移住（転入）が増加、60～64歳の女性がプラスに転じており、定年などを機に親の介護等で転入者が増加していることが考えられる。



## 2 (4) 4つの視点等について ②人の流れをつくる

### ◆市町村別県内・県外移動者数（令和5年10月1日～令和6年9月30日）

転出超過は341人（1,029人－688人）となっており、県内への転出超過は343人（525人－182人）、県外からは転入超過2人（506人－504人）となっている。県内への転出超過は、高岡市160人（282人－122人）、射水市41人（55人－14人）、富山市21人（134人－113人）の順となっている。

市町村別県内・県外移動者数（令和5年10月1日～令和6年9月30日）

（単位：人）

	新 住 所 地															県内計	県外	転出計
	富山市	高岡市	魚津市	氷見市	滑川市	黒部市	砺波市	小矢部市	南砺市	射水市	舟橋村	上市町	立山町	入善町	朝日町			
富山市		705	198	113	265	178	197	45	89	556	79	142	266	97	25	2,955	9,314	12,269
高岡市	604		32	122	40	29	178	80	72	548	1	7	16	14	8	1,751	3,070	4,821
魚津市	200	28		0	101	123	15	2	7	6	2	5	3	23	12	527	687	1,214
氷見市	134	282	5		2	7	22	5	5	55	3	0	5	0	0	525	504	1,029
滑川市	274	32	83	9		33	8	1	3	25	9	21	19	11	3	531	517	1,048
黒部市	244	30	152	5	58		11	5	1	15	0	6	6	72	7	612	800	1,412
砺波市	207	218	8	13	17	11		79	189	64	0	2	12	5	1	826	891	1,717
小矢部市	85	96	4	7	2	4	76		22	15	0	1	0	1	0	313	500	813
南砺市	129	98	7	8	3	4	161	43		34	2	3	4	1	1	498	725	1,223
射水市	611	508	13	14	11	14	52	14	16		5	8	12	4	1	1,283	1,441	2,724
舟橋村	50	7	1	0	1	0	0	0	0	3		4	10	0	0	76	47	123
上市町	164	11	12	1	38	11	3	0	3	9	3		32	9	1	297	220	517
立山町	252	9	10	2	17	13	5	1	4	10	8	17		4	3	355	238	593
入善町	104	9	41	0	24	80	2	4	0	6	1	4	6		23	304	268	572
朝日町	45	4	15	1	7	46	2	0	1	4	0	1	4	42		172	139	311
県内計	3,103	1,332	383	182	321	375	535	234	323	794	34	79	129	186	60			
県外	9,665	3,658	787	506	711	896	1,189	489	694	1,935	116	332	463	351	124			
転入計	12,768	4,990	1,170	688	1,032	1,271	1,724	723	1,017	2,729	150	411	592	537	184			

（出典）富山県人口移動調査

## 2 (4) 4つの視点等について ②人の流れをつくる

### ◆転入者の転入前住所の推移

氷見市への転入者は高岡市、富山市からが多く、県外では石川県、東京都が多くなっている。毎年、高岡市からの転入者数は全転入者数の2割以上を占めており、市民課窓口アンケートによると、転入理由は「結婚・離婚」「住宅事情」となっている。

(単位：人)

順位	2019		2020		2021		2022		2023		2024	
	地域	転入数	地域	転入数	地域	転入数	地域	転入数	地域	転入数	地域	転入数
1	高岡市	179	高岡市	143	高岡市	149	高岡市	132	高岡市	143	高岡市	122
2	富山市	101	富山市	75	富山市	76	富山市	105	富山市	107	富山市	109
3	石川県	65	石川県	60	石川県	58	石川県	67	石川県	67	石川県	94
4	東京都	40	射水市	41	東京都	51	射水市	37	東京都	54	東京都	36
5	射水市	35	東京都	33	射水市	34	東京都	31	愛知県	36	愛知県	21
6	愛知県	21	愛知県	19	埼玉県	19	愛知県	24	射水市	26	大阪府	21
7	新潟県	20	大阪府	19	愛知県	19	神奈川県	19	神奈川県	19	京都府	17
8	大阪府	18	神奈川県	16	千葉県	15	砺波市	18	福井県	18	射水市	15
9	砺波市	14	砺波市	16	南砺市	13	福井県	17	小矢部市	15	埼玉県	12
10	魚津市	13	小矢部市	15	福井県	13	埼玉県	14	大阪府	13	神奈川県	11
	その他	129	その他	133	その他	127	その他	141	その他	121	その他	119
	合計	635	合計	570	合計	574	合計	605	合計	619	合計	619
	(うち外国人)	80	(うち外国人)	27	(うち外国人)	59	(うち外国人)	100	(うち外国人)	116	(うち外国人)	103

※国外から転入した分は含まれていない

(出典) 住民基本台帳移動報告：1～12月

## 2 (4) 4つの視点等について ②人の流れをつくる

### ◆転出者の転出住所の推移

転出先として選択されているのは高岡市、富山市、射水市など県内が多く、県外では石川県、東京都、神奈川県が多くなっている。毎年、高岡市への転出者数は、全転出者数の3割近くを占めており、市民課窓口アンケートによると、転出の理由は「結婚・離婚」「住宅事情」となっている。

(単位：人)

順位	2019		2020		2021		2022		2023		2024	
	地域	転出数	地域	転出数	地域	転出数	地域	転出数	地域	転出数	地域	転出数
1	高岡市	258	高岡市	309	高岡市	249	高岡市	219	高岡市	225	高岡市	311
2	富山市	154	富山市	116	富山市	139	富山市	115	富山市	117	富山市	129
3	石川県	88	石川県	77	東京都	74	東京都	70	石川県	65	石川県	70
4	東京都	80	東京都	65	射水市	72	石川県	67	東京都	64	東京都	65
5	射水市	56	射水市	57	石川県	67	射水市	38	射水市	64	愛知県	34
6	愛知県	37	愛知県	37	愛知県	35	愛知県	37	愛知県	36	大阪府	26
7	神奈川県	26	神奈川県	23	大阪府	32	砺波市	25	大阪府	27	神奈川県	22
8	大阪府	22	千葉県	19	神奈川県	25	大阪府	22	神奈川県	21	砺波市	19
9	砺波市	17	小矢部市	17	埼玉県	22	神奈川県	20	埼玉県	17	福井県	18
10	埼玉県	15	大阪府	17	千葉県	14	兵庫県	16	千葉県	14	埼玉県	17
	その他	170	その他	162	その他	159	その他	160	その他	177	その他	225
	合計	923	合計	899	合計	888	合計	789	合計	827	合計	936
	(うち外国人)	49	(うち外国人)	25	(うち外国人)	53	(うち外国人)	44	(うち外国人)	51	(うち外国人)	72

※転入者の従前の住所地（都道府県及び市区町村別）によって統計局で算出した数である。したがって、必ずしも転出届出のあった者の数とは一致しない。（統計局ホームページより）

(出典) 住民基本台帳移動報告：1～12月

## 2 (4) 4つの視点等について ②人の流れをつくる

### ◆社会増減数の地域別内訳

転出超過の地域としては高岡市、射水市、富山市など県内が多く、県外では東京都が上位となっている。毎年、高岡市への転出超過は、全転出超過の3割以上を占めている。(なお、2020年は50.5%、2022年は47.3%、2024年は52.6%となっている。)

(単位：人)

順位	2019		2020		2021		2022		2023		2024	
	地域	社会増減数	地域	社会増減数	地域	社会増減数	地域	社会増減数	地域	社会増減数	地域	社会増減数
1	高岡市	-79	高岡市	-166	高岡市	-100	高岡市	-87	高岡市	-82	高岡市	-189
2	富山市	-53	富山市	-41	富山市	-63	東京都	-39	射水市	-38	東京都	-29
3	東京都	-40	東京都	-32	射水市	-38	兵庫県	-16	埼玉県	-17	富山市	-20
4	石川県	-23	愛知県	-18	大阪府	-32	愛知県	-13	千葉県	-14	砺波市	-19
5	射水市	-21	石川県	-17	東京都	-23	北海道	-12	大阪府	-14	千葉県	-13
6	愛知県	-16	射水市	-16	愛知県	-16	千葉県	-12	新潟県	-13	愛知県	-13
7	埼玉県	-15	福井県	-13	神奈川県	-13	新潟県	-12	京都府	-12	新潟県	-12
8	京都府	-15	千葉県	-9	兵庫県	-13	富山市	-10	栃木県	-11	神奈川県	-11
9	神奈川県	-14	神奈川県	-7	石川県	-9	大阪府	-9	群馬県	-10	長野県	-11
10	千葉県	-12	小矢部市	-2	埼玉県	-3	砺波市	-7	東京都	-10	福井県	-7
	その他	0	その他	2	その他	3	その他	-35	その他	13	その他	-35
	合計	-288	合計	-329	合計	-314	合計	-184	合計	-208	合計	-359

※「その他市町村（県内）」、「その他県」は順位から除外し、「その他」に集約した。

(出典) 住民基本台帳移動報告(1~12月)

## 2 (4) 4つの視点等について ②人の流れをつくる

### ◆市町村別昼夜間人口と昼夜間人口比率

市町村別昼夜間人口比率については、県西部で最も低い状況であり、市内での仕事を選択されていない、若しくは「仕事」「教育」の場が少なく選ばれていない状況である。

表4 市町村別昼間人口及び夜間(常住)人口(令和2年)

(単位：人)

	夜間(常住) 人口 A	増加人口 R2~H27	他市町村へ の通勤・通 学者(流出) B	他市町村か らの通勤・ 通学者(流 入) C	流出・流入 の差引 D(C-B)	昼間人口 E(A+D)	R2~H27	
							増加人口	伸び率
							R2~H27	
富山市	413,938	△ 4,748	27,889	51,468	23,579	437,517	△ 5,544	△ 1.3%
高岡市	166,393	△ 5,732	32,615	30,633	△ 1,982	164,411	△ 7,165	△ 4.2%
魚津市	40,535	△ 2,400	10,339	9,246	△ 1,093	39,442	△ 2,875	△ 6.8%
氷見市	43,950	△ 4,042	10,129	3,571	△ 6,558	37,392	△ 3,378	△ 8.3%
滑川市	32,349	△ 406	10,857	9,040	△ 1,817	30,532	△ 346	△ 1.1%
黒部市	39,638	△ 1,353	7,883	10,585	2,702	42,340	△ 2,025	△ 4.6%
砺波市	48,154	△ 846	14,238	11,583	△ 2,655	45,499	△ 1,230	△ 2.6%
小矢部市	28,983	△ 1,416	7,456	7,780	324	29,307	△ 682	△ 2.3%
南砺市	47,937	△ 3,390	9,025	8,350	△ 675	47,262	△ 3,243	△ 6.4%
射水市	90,742	△ 1,566	24,993	22,119	△ 2,874	87,868	△ 830	△ 0.9%
舟橋村	3,132	150	1,617	725	△ 892	2,240	65	3.00%
上市町	19,351	△ 1,579	6,566	4,573	△ 1,993	17,358	△ 1,124	△ 6.1%
立山町	24,792	△ 1,525	8,906	4,783	△ 4,123	20,669	△ 994	△ 4.6%
入善町	23,839	△ 1,496	6,400	3,974	△ 2,426	21,413	△ 705	△ 3.2%
朝日町	11,081	△ 1,165	3,004	1,552	△ 1,452	9,629	△ 1,232	△ 11.3%

注)不詳補完値により算出

表5 市町村別昼夜間人口比率

	R2	H27	R2-H27
富山市	105.7	105.8	△ 0.1
高岡市	98.8	99.7	△ 0.9
魚津市	97.3	98.6	△ 1.3
氷見市	85.1	85	0.1
滑川市	94.4	94.3	0.1
黒部市	106.8	108.2	△ 1.4
砺波市	94.5	95.4	△ 0.9
小矢部市	101.1	98.7	2.5
南砺市	98.6	98.4	0.2
射水市	96.8	96.1	0.7
舟橋村	71.5	72.9	△ 1.4
上市町	89.7	88.3	1.4
立山町	83.4	82.3	1.1
入善町	89.8	87.3	2.5
朝日町	86.9	88.7	△ 1.8

注)不詳補完値により算出

(出典) 令和2年国勢調査をとやま統計ワールド経由で取得

## 2 (4) 4つの視点等について ②人の流れをつくる

### ◆通勤・通学による市町村間の流入・流出口(15歳以上)

通勤・通学での転出超過については、高岡市3,836人(5,964人-2,128人)、射水市948人(1,362人-414人)、富山市853人(1,008人-155人)の順となっている。

付表 通勤・通学による市町村間の流入・流出口(15歳以上)(令和2年)

常住地(表側)の市町村から従業地・通学地(表頭)の市町村へ通勤・通学したことを表している。

例1: 富山市には、通勤・通学のために高岡市から7,504人、魚津市から2,316人……金沢市の1,092人を含む他県から3,119人流入した。

例2: 富山市から、通勤・通学のために高岡市へ3,661人、魚津市へ1,612人……金沢市の1,324人を含む他県へ2,834人流出した。

(単位:人)

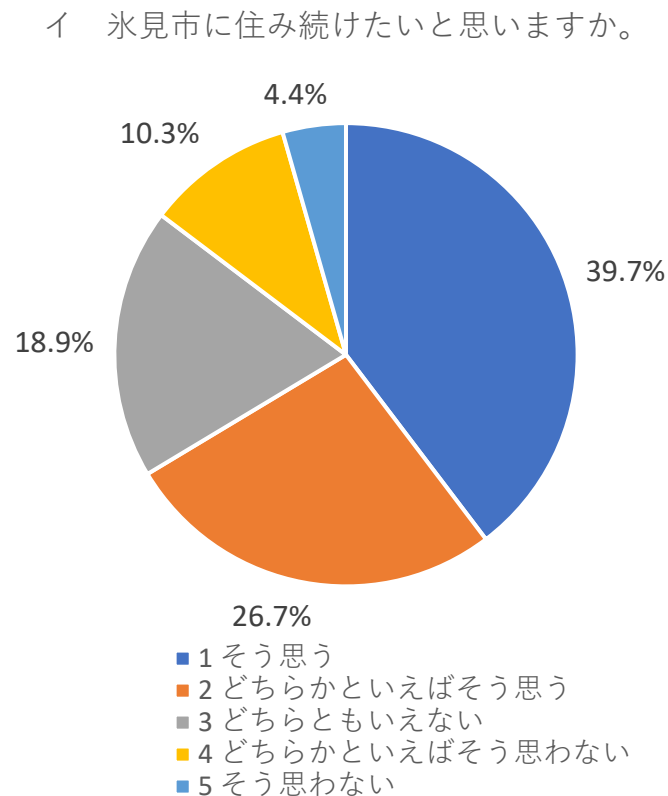
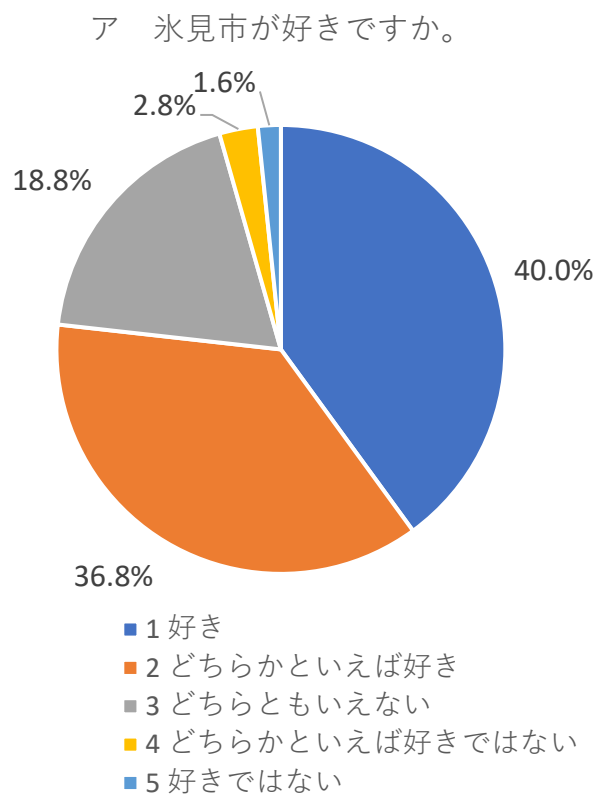
従業地・通学地 常住地	富山市	高岡市	魚津市	氷見市	滑川市	黒部市	砺波市	小矢部市	南砺市	射水市	舟橋村	上市町	立山町	入善町	朝日町	県内計	他県計	他県で最も多い 市町村・流出口
富山市		3,661	1,612	155	3,165	965	861	196	429	6,110	308	1,832	2,926	178	63	22,461	2,834	金沢市 1,324
高岡市	7,504		90	2,128	108	60	3,595	2,521	1,337	9,715	7	32	52	12	3	27,164	2,032	金沢市 1,246
魚津市	2,316	67		2	2,064	3,213	17	4	5	118	21	264	112	532	113	8,848	168	金沢市 51
氷見市	1,008	5,964	10		11	4	236	276	135	1,362	0	0	8	0	0	9,014	437	金沢市 142
滑川市	5,222	107	1,931	5		983	18	6	10	180	64	949	334	156	30	9,995	185	金沢市 54
黒部市	1,481	40	2,764	2	784		12	8	2	59	9	117	44	1,607	378	7,307	175	金沢市 50
砺波市	2,044	4,091	28	84	17	9		1,730	3,778	936	1	4	15	1	1	12,739	740	金沢市 474
小矢部市	794	2,322	10	80	6	2	1,464		1,108	348	0	2	8	1	0	6,145	1,013	金沢市 696
南砺市	1,029	1,753	13	43	10	6	3,318	1,344		337	0	3	7	2	1	7,866	928	金沢市 685
射水市	11,212	9,269	93	414	162	50	805	326	317		6	62	69	5	2	22,792	792	金沢市 436
舟橋村	1,028	23	38	1	111	22	3	0	3	49		132	155	6	0	1,571	18	金沢市 11
上市町	3,737	67	390	2	1,005	147	24	1	6	126	129		592	38	6	6,270	97	金沢市 48
立山町	6,339	83	188	6	475	106	23	4	18	146	126	761		27	6	8,308	125	金沢市 55
入善町	808	29	1,011	0	258	3,012	5	2	0	42	1	31	17		793	6,009	139	金沢市 37
朝日町	333	10	345	0	68	1,012	2	1	1	15	0	10	7	1,068		2,872	96	糸魚川市 32
県内計	44,855	27,486	8,523	2,922	8,244	9,591	10,383	6,419	7,149	19,543	672	4,199	4,346	3,633	1,396			
他県計	3,119	1,308	190	325	51	180	415	797	595	498	3	29	56	119	62			
他県で最も多い 市町村・流入人口	金沢市 1,092	金沢市 498	金沢市 32	七尾市 122	金沢市 7	糸魚川市 59	金沢市 178	金沢市 335	金沢市 314	金沢市 143	須坂市 ほか2 1	上越市 5	大町市 12	糸魚川市 80	糸魚川市 47			

(出典) 令和2年国勢調査をとやま統計ワールド経由で取得

## 2 (4) 4つの視点等について ②人の流れをつくる

### ◆氷見市に対する思い【令和6年度市民アンケート結果より】

「氷見市が好きですか」の問いに対して、「好き」と回答する人が76.8%となっている。一方で「氷見市に住み続けたい」と回答する人は、66.1%となっている。

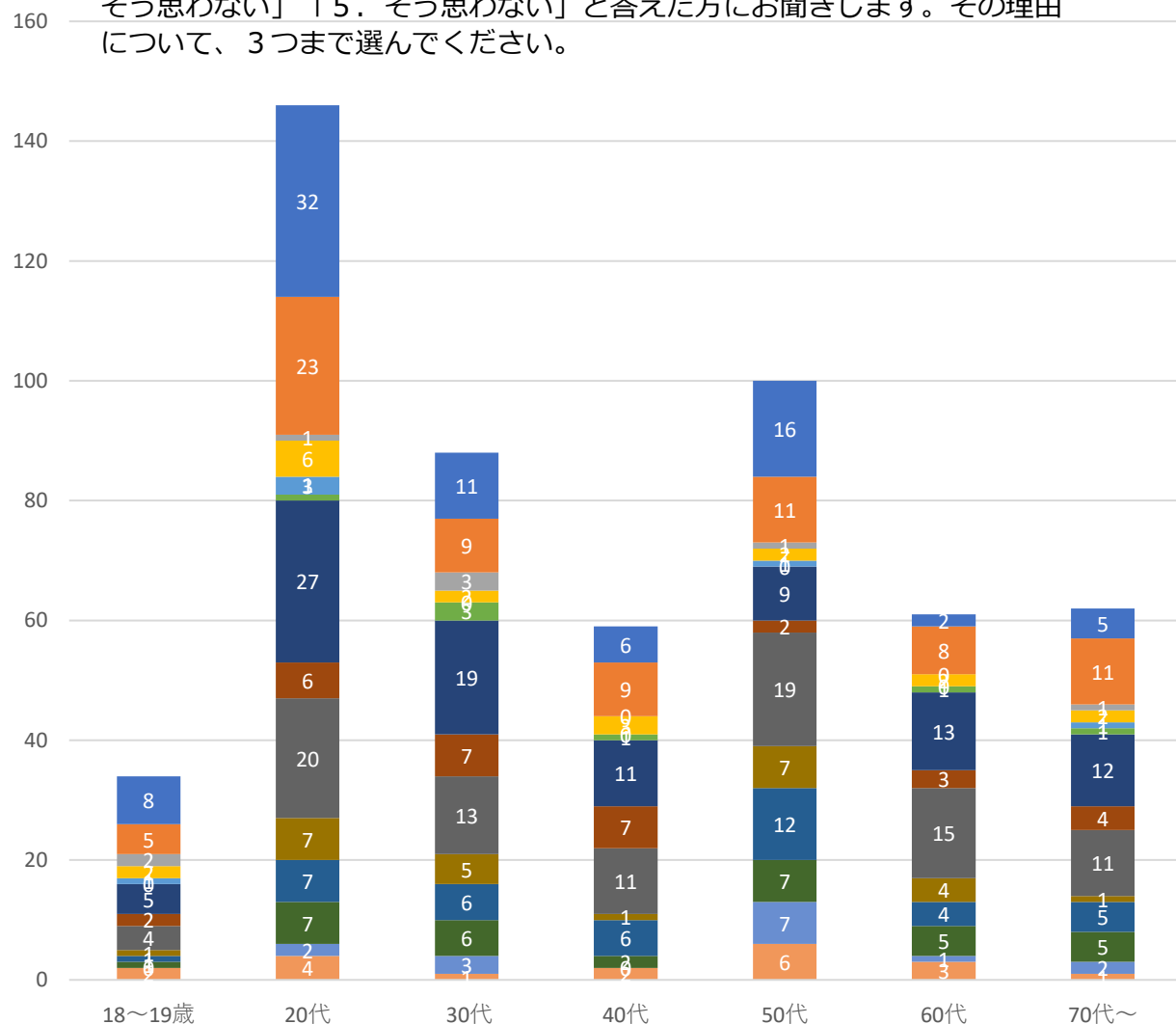


## 2 (4) 4つの視点等について ②人の流れをつくる

### ◆氷見市に住み続けたいと思わない理由【令和6年度市民アンケート結果より】

回答数が多いのは、20代、30代、50代となっていることから、若い世代や働き世代が氷見市に住み続けたいとは思っていない状況にある。

ウ イ「氷見市に住み続けたいと思いますか。」に「4. どちらかといえばそう思わない」「5. そう思わない」と答えた方にお聞きします。その理由について、3つまで選んでください。



- 1 通勤・通学が不便
- 2 買い物が不便
- 3 価格や利便性が適当な住宅用地が少ない
- 4 子育て環境が十分でない
- 5 教育環境が十分でない
- 6 子どもの塾や習い事を選択肢が少ない
- 7 市内で楽しめる場所が少ない
- 8 医療機関が少ない
- 9 地域の高齢化、過疎化が進んでいる
- 10 地域での人付き合いがわずらわしい
- 11 昔ながらの慣習やしきたりが強い（年齢、性別による差がある等）
- 12 災害が不安
- 13 市外の子ども・親族と暮らしたい
- 14 その他

## 2 (4) 4つの視点等について ②人の流れをつくる

### ◆氷見市に住み続けたいと思わない理由【令和6年度市民アンケート結果より】

氷見市に住み続けたいと思わない理由として「地域の高齢化、過疎化が進んでいる」「市内で楽しめる場所が少ない」「通勤・通学、買い物が不便」が上位を占めている。

ウ イ「氷見市に住み続けたいと思いますか。」に「4. どちらかといえばそう思わない」「5. そう思わない」と答えた方にお聞きします。その理由について、3つまで選んでください。

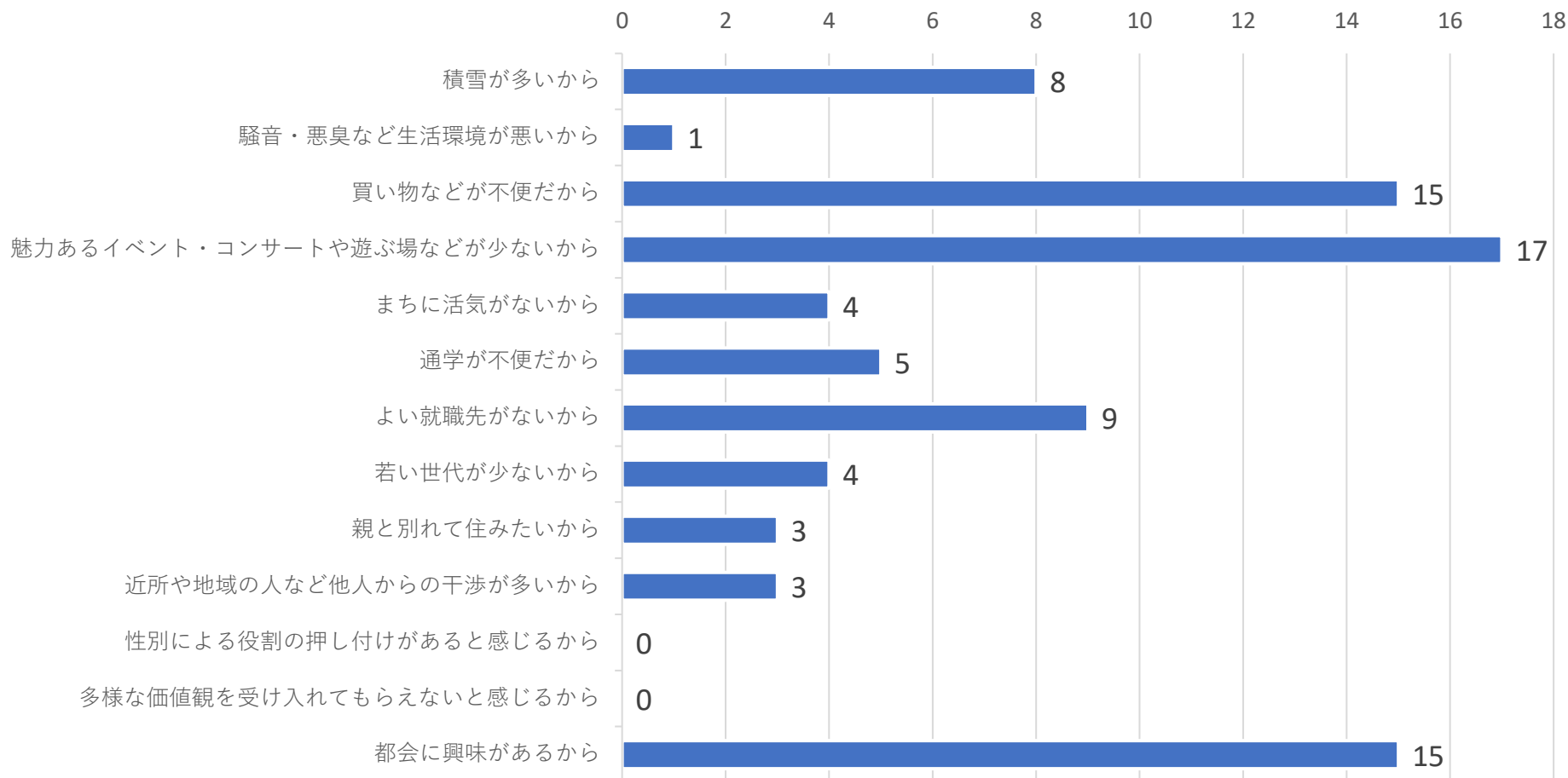
	18～19歳	20代	30代	40代	50代	60代	70代～	未回答	総計
1 通勤・通学が不便	8	32	11	6	16	2	5	1	81
2 買い物が不便	5	23	9	9	11	8	11	1	77
3 価格や利便性が適当な住宅用地が少ない	2	1	3		1		1		8
4 子育て環境が十分でない	2	6	2	3	2	2	2		19
5 教育環境が十分でない	1	3			1		1		6
6 子どもの塾や習い事の選択肢が少ない		1	3	1		1	1	1	8
7 市内で楽しめる場所が少ない	5	27	19	11	9	13	12		96
8 医療機関が少ない	2	6	7	7	2	3	4		31
9 地域の高齢化、過疎化が進んでいる	4	20	13	11	19	15	11	1	94
10 地域での人付き合いがわずらわしい	1	7	5	1	7	4	1	1	27
11 昔ながらの慣習やしきたりが強い（年齢、性別による差がある等）	1	7	6	6	12	4	5	1	42
12 災害が不安	1	7	6	2	7	5	5		33
13 市外の子ども・親族と暮らしたい		2	3		7	1	2		15
14 その他	2	4	1	2	6	3	1		19
未回答	59	328	314	391	443	416	394	33	2,378
総計	93	474	402	450	543	477	456	39	2,934

## 2 (4) 4つの視点等について ②人の流れをつくる

### ◆若者の定住意向【令和6年度氷見高校2年生アンケート結果より】

今住んでいる市町村に将来住みたくない理由として、「魅力あるイベント・コンサートや遊ぶ場などが少ない」「都会に興味がある」「買い物などが不便」「よい就職先がない」の回答が上位を占めている。

問2-2 問2-1で「住みたくない」と回答された方にお聞きします。あなたが住みたくないと回答した理由を、次の中から3つ選んでください。

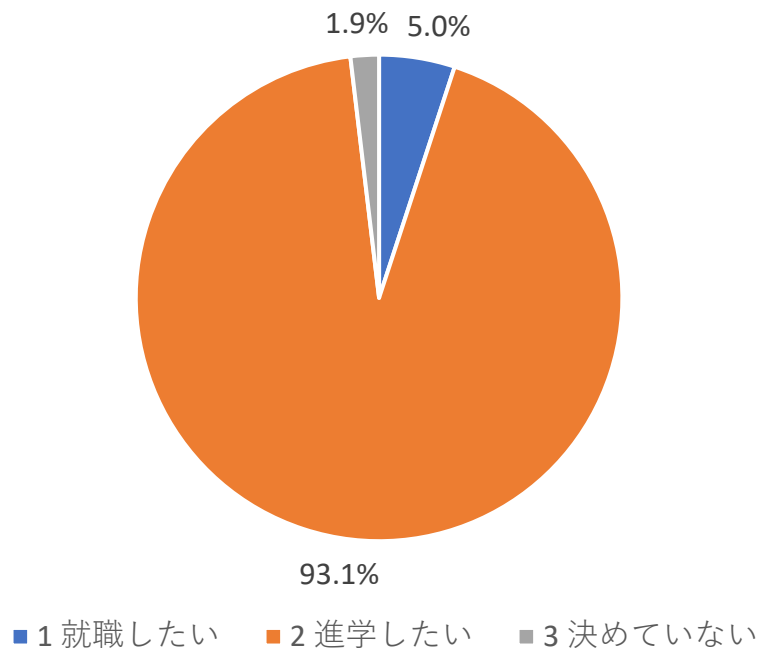


## 2 (4) 4つの視点等について ②人の流れをつくる

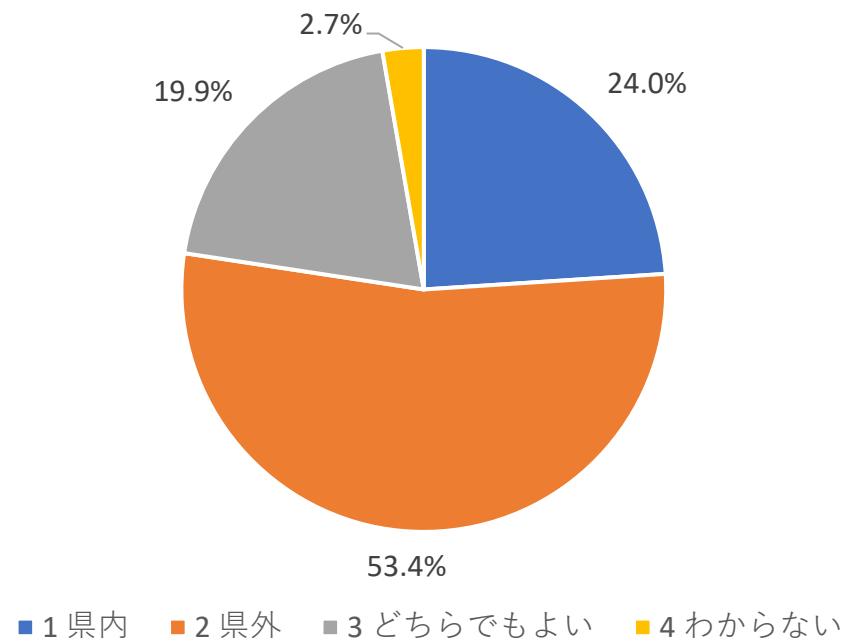
### ◆若者の進学意向【令和6年度氷見高校2年生アンケート結果より】

「高校卒業後は進学したい」が93.1%、進学先は県内を希望が24%、県外を希望が53.4%となっており、氷見高校生は卒業後半数が県外へ進学したいと考えている。

問3-1 高校を卒業したら就職したいですか。  
進学したいですか。



問3-3 問3-1で「進学したい」と回答された方への質問。  
進学先は県内を希望しますか。それとも県外を希望  
しますか。



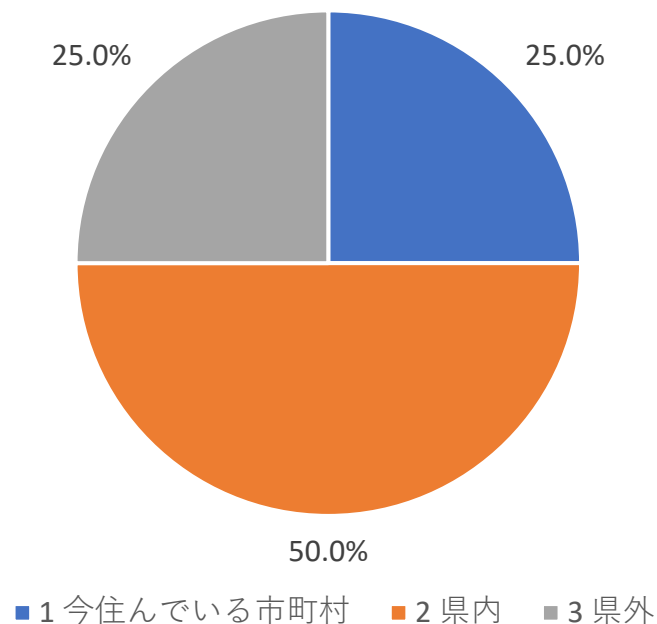
## 2 (4) 4つの視点等について ②人の流れをつくる

### ◆若者の就職意向【令和6年度氷見高校2年生アンケート結果より】

「高校卒業後に就職したい」が5%、就職先に市内を希望が25%、また、進学して大学等を卒業後に市内での就職を希望が8.2%となっており、氷見高校生は卒業後や進学後に市内での就職希望は9%程度しかいない。(就職希望5%×25%+進学希望93.1%×8.2%)

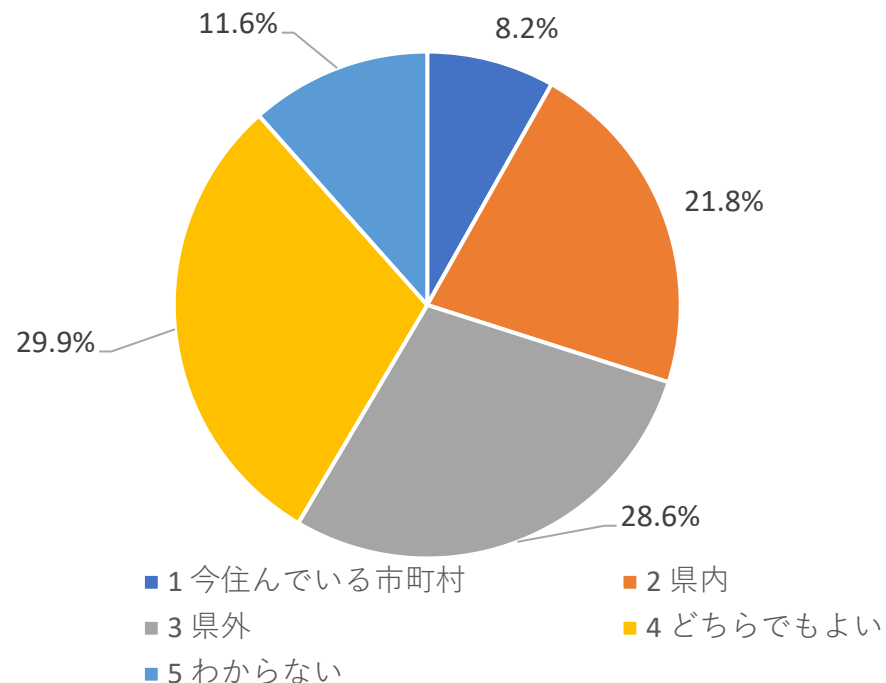
問3-2 問3-1で「就職したい」と回答された方への質問。

就職先は今住んでいる市町村を希望しますか。それとも県内、県外を希望しますか。



問3-4 問3-1で「進学したい」と回答された方への質問。

大学などを卒業後、就職するときは今住んでいる市町村を希望しますか。それとも県内、県外を希望しますか。



## 2 (4) 4つの視点等について ②人の流れをつくる

### 現状・課題

- ・20代女性の人口減少が拡大するとともに、15歳から39歳までの日本人女性は毎年100人以上の転出超過が続いていることから、女性の転出超過を抑える必要がある。
- ・30～34歳の方が35～39歳になったときに社会増となっており、子育て世代の移住が増えていると考えられる。
- ・女性で55～59歳の方が60～64歳になったときに社会増となっており、親の介護でのUターンが増えていると考えられる。
- ・転出超過先として、高岡市が全体の3割以上を占めており、理由として「結婚・離婚」「住宅事情」となっている。
- ・通学や通勤での市外流出（昼夜間人口比率）は、県内10市で最低となっており、市内で居住して通学や通勤する人を増やす必要がある。
- ・市民アンケート結果から、定住志向の低下やふるさと愛の低下があることから、定住への課題は「通勤・通学」「買い物」が不便であること、高齢化・過疎化の進行、楽しむ場所の不足が考えられる。
- ・氷見高校2年生アンケート結果から、定住への課題は「魅力あるイベント、遊ぶ場所の不足」「買物が不便」「よい就職先がない」が考えられ、市内での就職希望者も少ない。

### 市の取組と実績

#### 【R2からR5までの進捗などについて】

- ・移住定住促進事業：IJU応援センターを通して移住した人数累計（R7目標:200人⇒141人）
- ・ぶり奨学プログラム事業：指定措置人数（R7目標:84人⇒75人）
- ・観光振興事業：観光消費額（R7目標:186億円⇒251億円）  
観光入込数（目標:196万人⇒217万人）
- ・まんがのまちづくり推進事業
- ・国際観光振興事業・インバウンド強化事業：外国人宿泊者数（R7目標:10,160人⇒4,981人）
- ・関係人口構築事業：氷見きときとファンクラブ会員数（R7目標:1,900人⇒1,696人）
- ・コンベンション推進事業

#### 【取組の満足度（市民アンケート結果）】

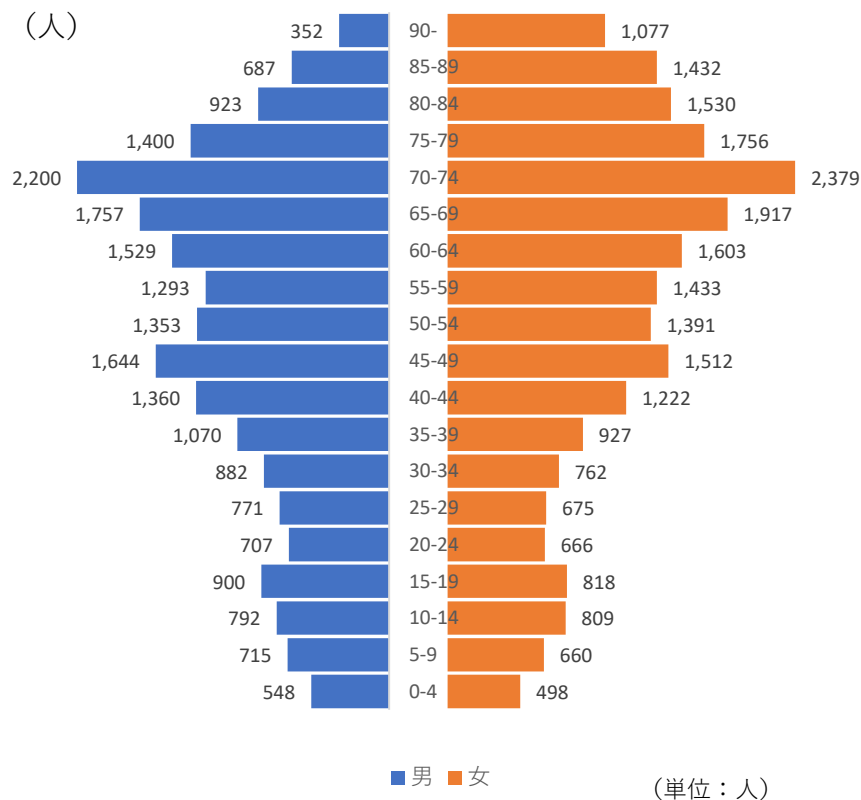
- ・移住・Uターン0.9%、交流・関係人口0.9%

## 2 (4) 4つの視点等について ③結婚・出産・子育ての希望をかなえる

### ◆男女別、年代別人口の推移

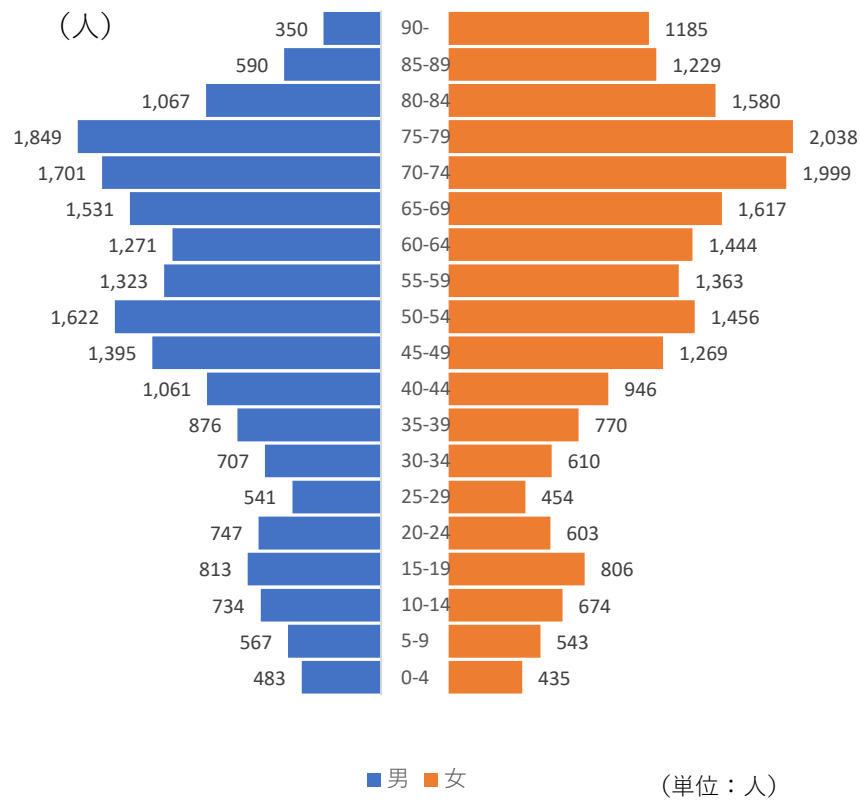
男女別の人口では、令和2年国勢調査及び令和7年4月1日の富山県人口移動調査ともに女性の人口が男性の人口を上回っている。15～39歳では、令和2年国勢調査が男性4,330人に対して女性3,848人、令和7年4月1日の富山県人口移動調査が男性3,684人に対して女性3,242人であり、若い世代の女性が少ない人口構造となっている。

令和2年国勢調査



区分	男	女	計
全体	20,883	23,067	43,950
15～39歳	4,330	3,848	8,178

令和7年4月1日富山県人口移動調査



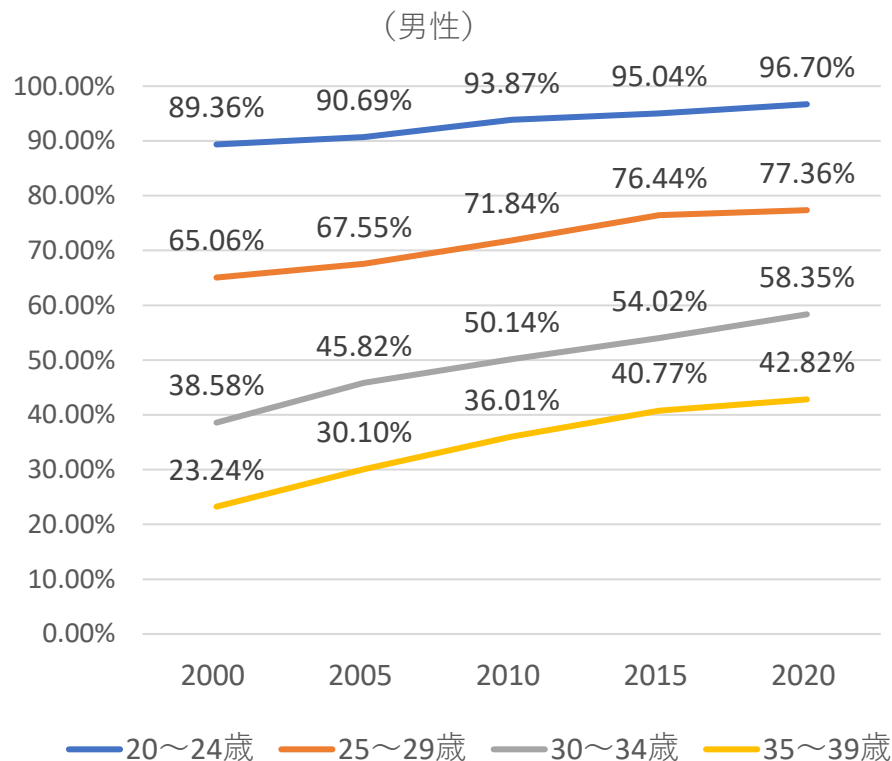
区分	男	女	計
全体	19,228	21,021	39,899
15～39歳	3,684	3,243	6,927

(出典) 令和2年国勢調査、富山県人口移動調査

## 2 (4) 4つの視点等について ③結婚・出産・子育ての希望をかなえる

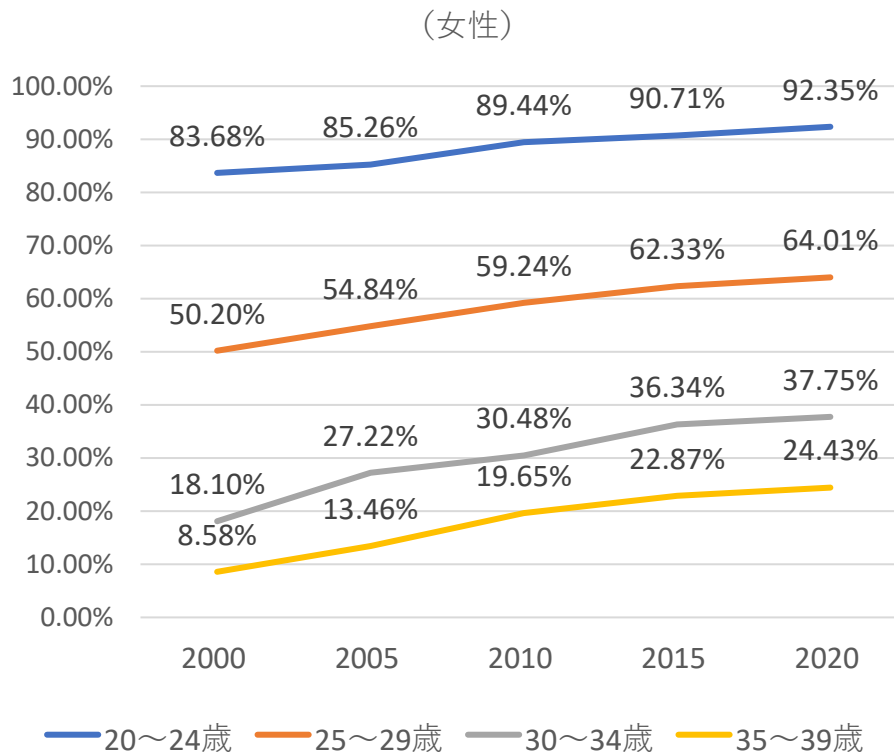
### ◆未婚率の推移

男性女性ともに未婚率は上昇しており、晩婚化もますます進んでいる。また、総じて男性の未婚率が高くなっており、男性の30歳から34歳では約6割が未婚となっているが、女性は30代には約7割が結婚している。2020年では20～24歳の女性を除いて、すべての年代で全国平均、県内平均の未婚率を上回っている。



2020年未婚率（男性）

	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳
全国	95.24%	72.88%	47.35%	34.54%
県	95.89%	74.18%	49.78%	36.82%
氷見市	96.70%	77.36%	58.35%	42.82%



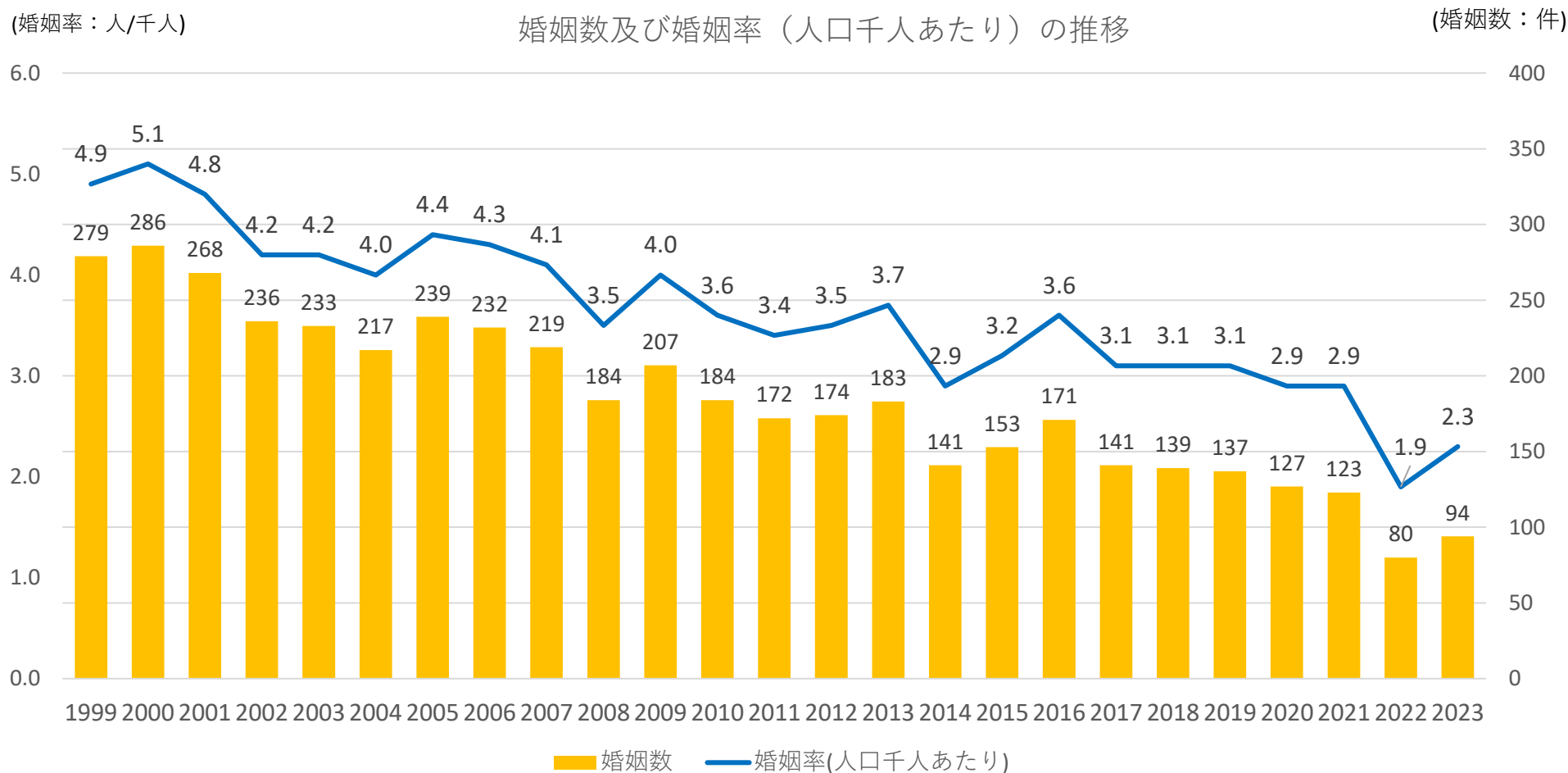
2020年未婚率（女性）

	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳
全国	92.34%	62.43%	35.25%	23.64%
県	92.41%	60.69%	33.35%	21.73%
氷見市	92.35%	64.01%	37.75%	24.43%

## 2 (4) 4つの視点等について ③結婚・出産・子育ての希望をかなえる

### ◆婚姻数及び婚姻率（人口千人あたり）の推移

婚姻数は長期的に減少傾向が続いている。2022年はコロナ禍の影響による男女の交際機会が減少したこと等に伴い、婚姻数が減少したことが予想される。



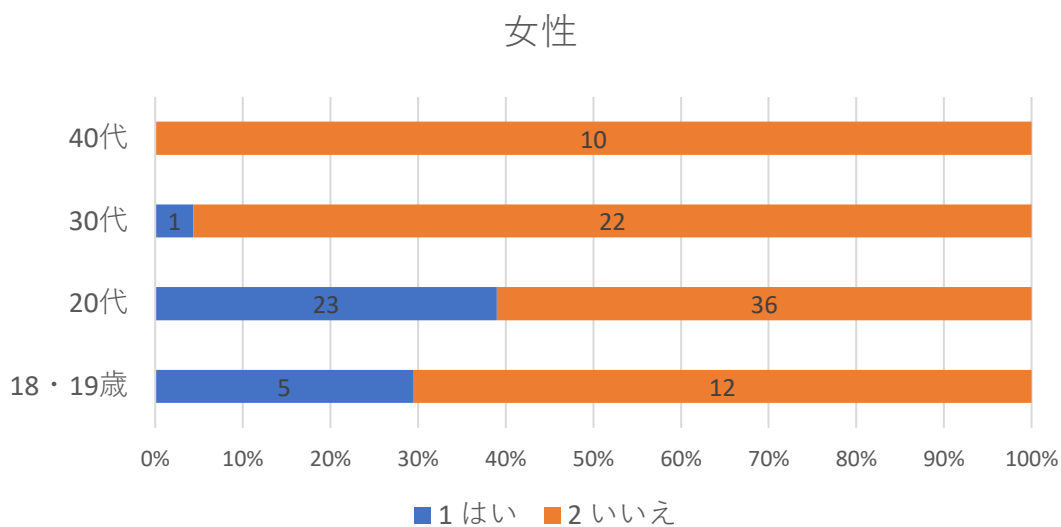
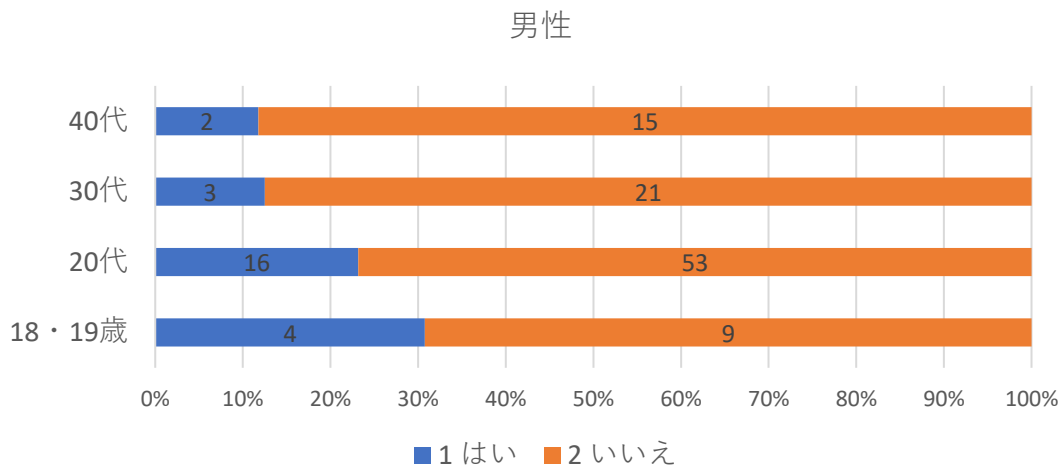
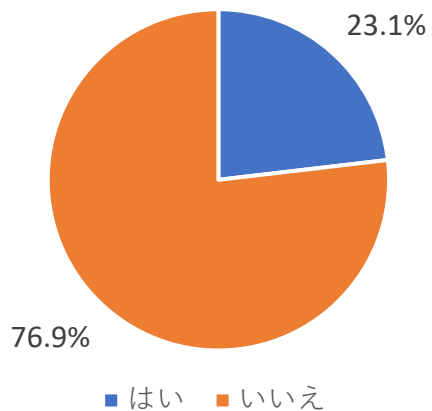
(出典) 富山県保健統計1～12月

## 2 (4) 4つの視点等について ③結婚・出産・子育ての希望をかなえる

### ◆結婚について【令和6年度市民アンケート結果より】

男性の交際相手のいる率は30代以降は10%台に低下している。また、女性の交際相手のいる率は30代以降は5%以下となっている。

セ 現在、交際している相手がありますか。  
(18~40代で未婚の方のみ)

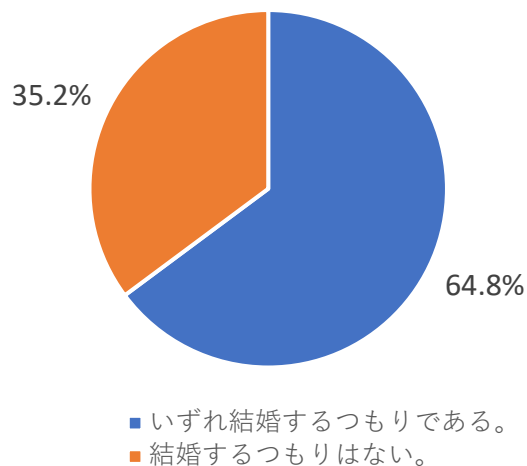


## 2 (4) 4つの視点等について ③結婚・出産・子育ての希望をかなえる

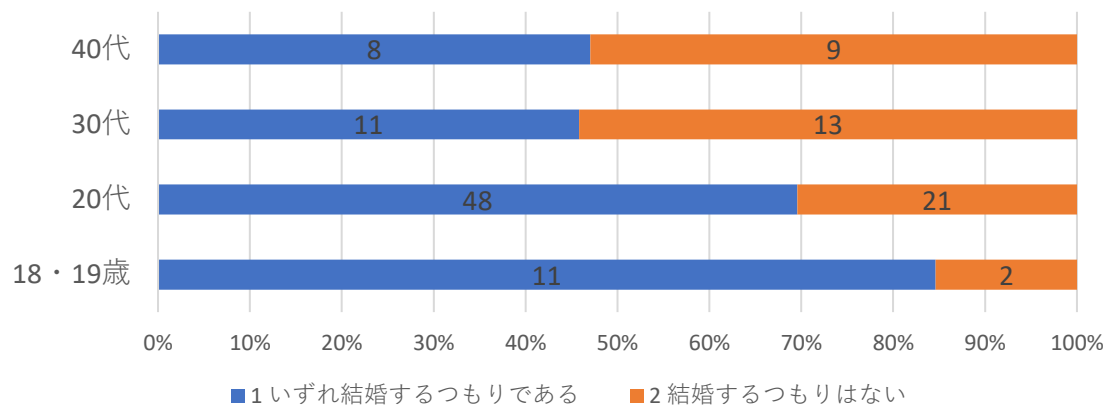
### ◆結婚について【令和6年度市民アンケート結果より】

男性の結婚する意向は30代以降も45%以上あるが、女性の結婚する意向は40代になると30%に低下している。

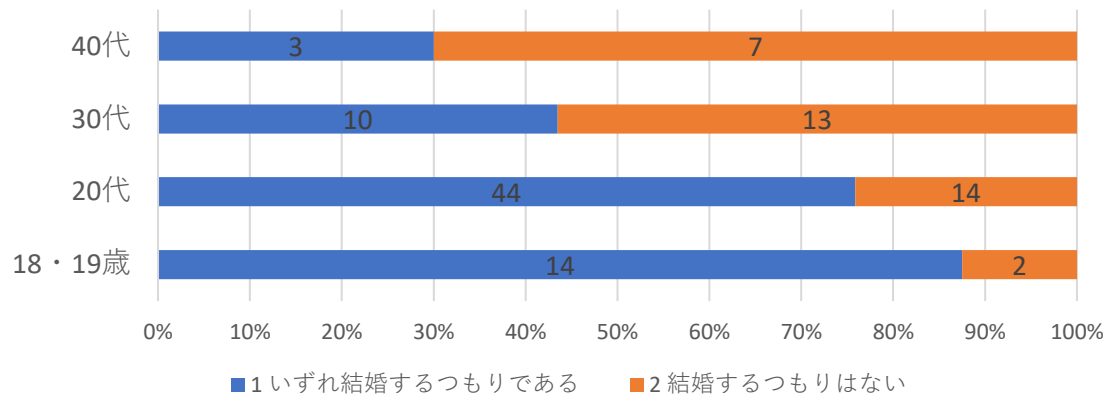
ソ 今後の結婚について現在のお気持ちを  
お答えください。(18~40代で未婚の方のみ)



### 男性



### 女性



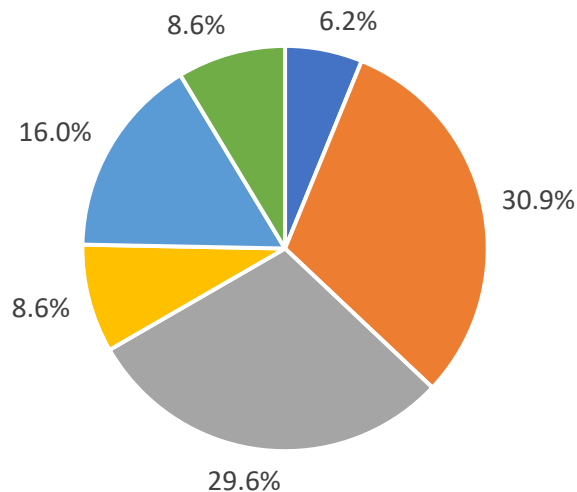
## 2 (4) 4つの視点等について ③結婚・出産・子育ての希望をかなえる

### ◆結婚について【令和6年度市民アンケート結果より】

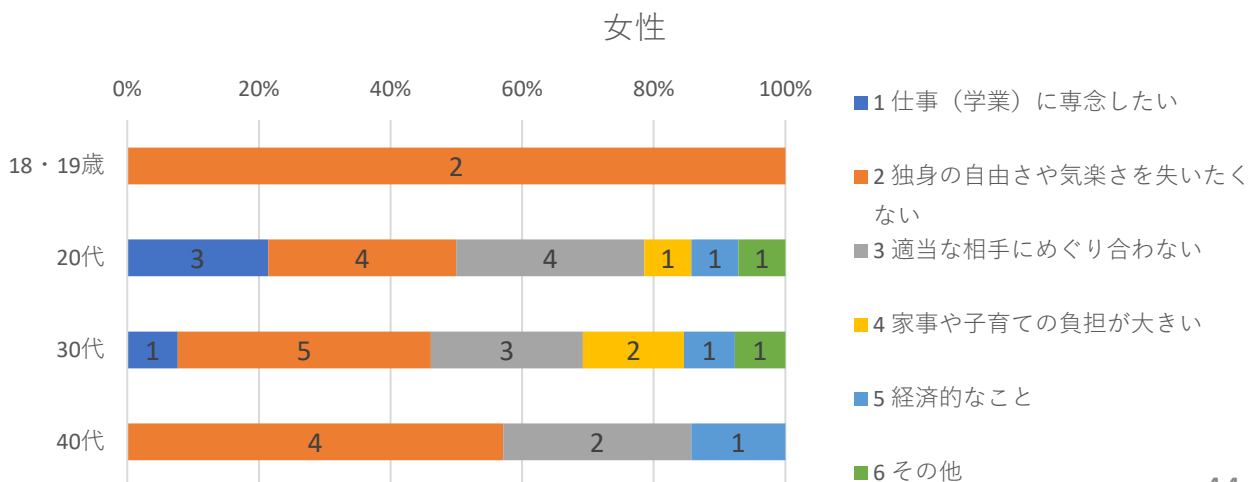
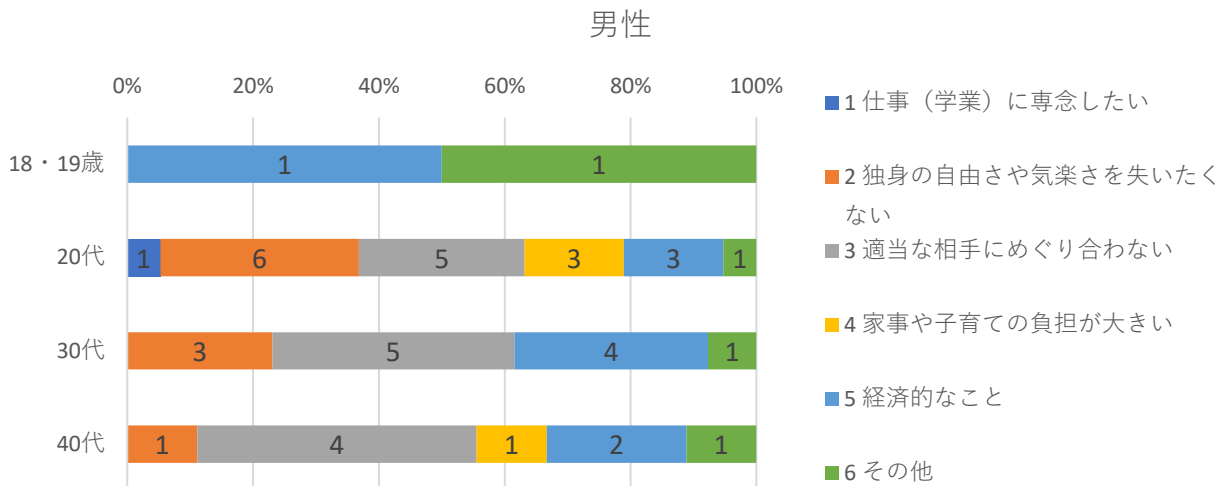
男性の結婚する意向は30代以降も45%以上を占めているが、交際相手のいる率は10%台に低下している。また、「結婚するつもりはない」は30代以降は約5割となり、その理由の約4割は「適当な相手にめぐり合わない」と回答している。

女性の結婚する意向は30代では43%、40代では30%で男性と比べて低く、交際相手のいる率も5%以下となっている。また、「結婚するつもりはない」は30代以降は約6割以上となり、その理由の4割以上が「独身の自由さや気楽さを失いたくない」と回答している。

タ「2. 結婚するつもりはない」と回答された方にお聞きします。その理由について、1つ選んでください。



- 1 仕事（学業）に専念したい
- 2 独身の自由さや気楽さを失いたくない
- 3 適当な相手にめぐり合わない
- 4 家事や子育ての負担が大きい
- 5 経済的なこと
- 6 その他

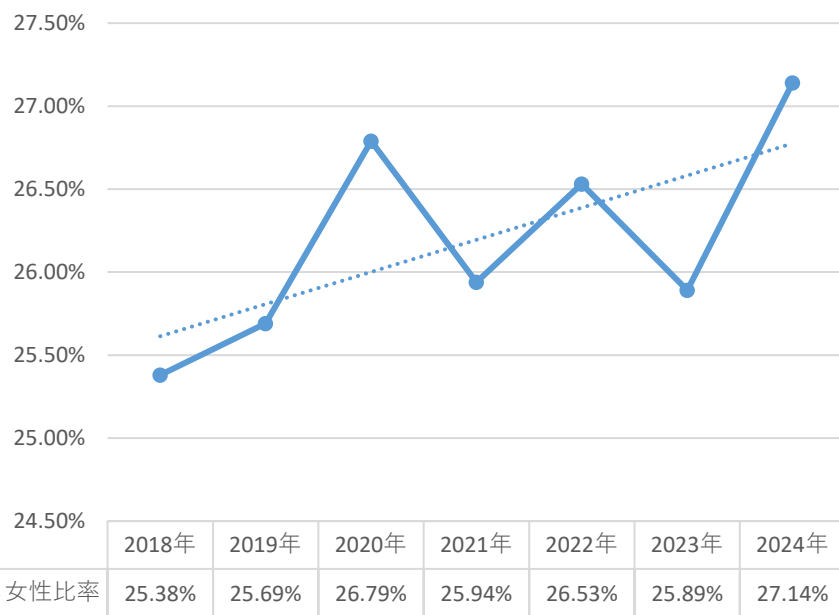


## 2 (4) 4つの視点等について ③結婚・出産・子育ての希望をかなえる

### ◆子ども女性比率、合計特殊出生率の推移

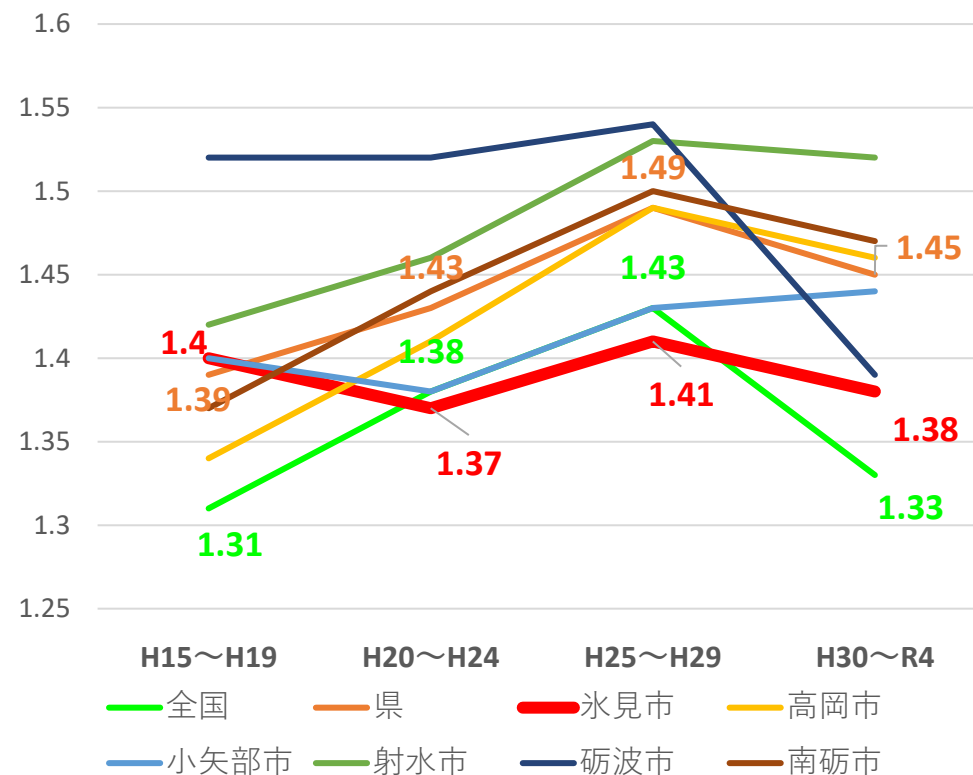
子ども女性比率（20～44歳の女性数に対する0～4歳の子どもの数の割合）は変動はあるものの、緩やかに上昇している。また、合計特殊出生率は、近隣自治体の中でも低位で推移している

氷見市子ども女性比率の推移



単位：人

合計特殊出生率の推移



(出典) 厚労省人口動態統計の特殊統計（人口動態保健所・市区町村別統計  
富山県人口移動調査  
総務省統計局人口推計

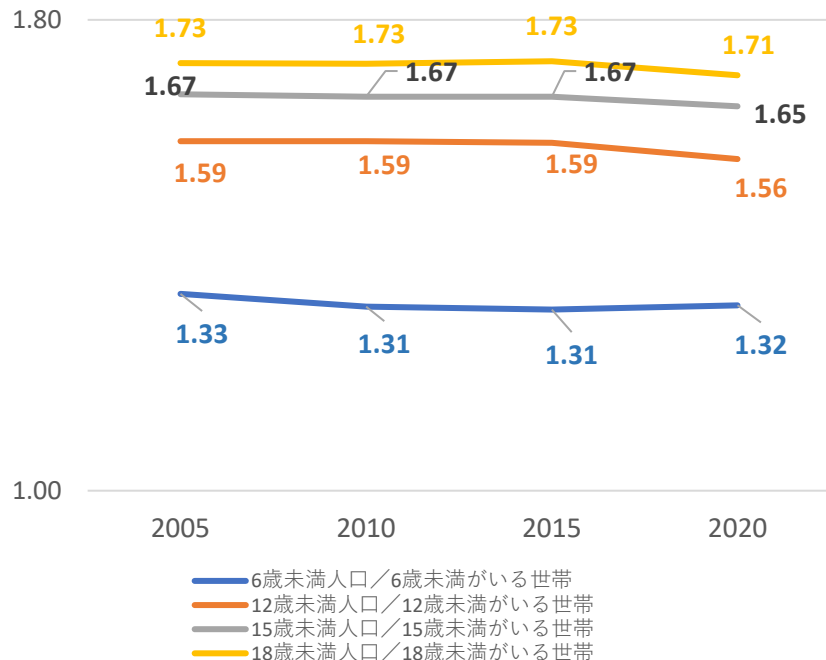
## 2 (4) 4つの視点等について ③結婚・出産・子育ての希望をかなえる

### ◆世帯数と子どもの数の推移

出生数・出生率が低い値となっている一方で、子どもがいる世帯における1世帯あたりの子どもの数の推移については大きな変化が見られないが、2021年には第1子より第2子の方が多くなっている。2020年から2022年まで第1子が減少傾向になったのは、コロナ禍で男女の交際機会が減少し結婚が遅れたことや、結婚を延期したことなどが影響しているのではないかと考えられる。

子どもがいる世帯における1世帯あたりの子ども数

単位：人

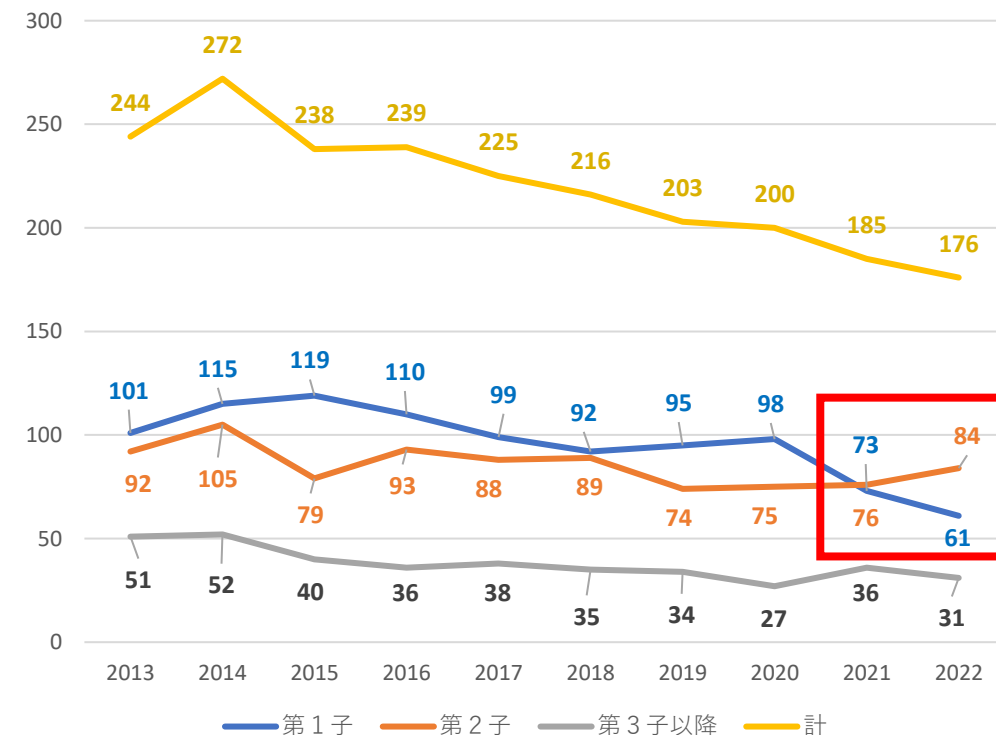


(人) / (世帯数)

	2005	2010	2015	2020
6歳未満人口/6歳未満がいる世帯	2414/1809	1973/1503	1602/1225	1298/987
12歳未満人口/12歳未満がいる世帯	5149/3231	4493/2819	3690/2319	3030/1938
15歳未満人口/15歳未満がいる世帯	6587/3936	5877/3520	4915/2944	4022/2433
18歳未満人口/18歳未満がいる世帯	8195/4746	7233/4192	6220/3596	5150/3019

年別出生児の属性（第1子・第2子・第3子以降）の推移

単位：人



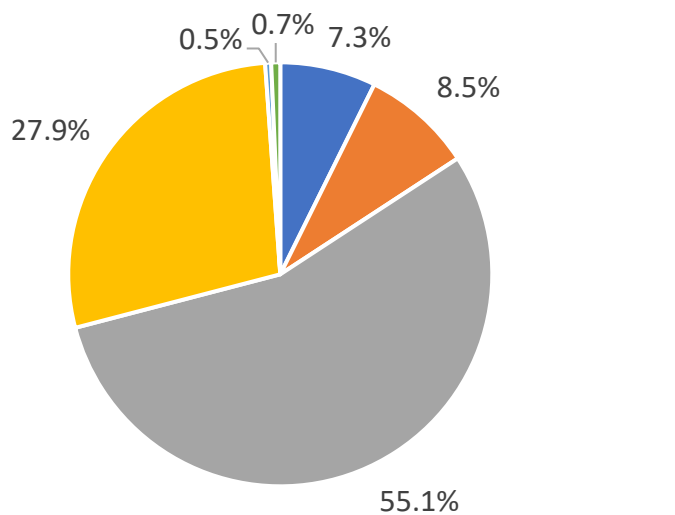
(出典)：氷見市 子育て応援券申請実績 (H25～R4)

## 2 (4) 4つの視点等について ③結婚・出産・子育ての希望をかなえる

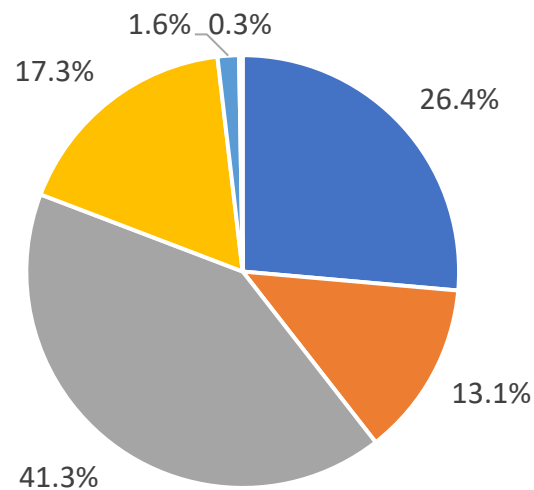
### ◆理想の子どもの数と予定人数【令和6年度市民アンケート結果より】

理想とする子どもの数は「2人」という回答が最も多く、「3人以上」と合わせると83%以上となる。一方で、これから予定している子どもの数の「2人」と「3人以上」を合わせた回答が58.6%となっており、理想とのギャップが生じている。

チ あなたが理想とする子どもの数を回答欄に書いてください。



ツ 現在のお子さんの数と、ご夫婦でこれから予定されているお子さんの数を合計した子どもの数を回答欄に書いてください。



■ 0人 ■ 1人 ■ 2人 ■ 3人以上 ■ その他 ■ 希望無し  
※18歳～40代の方が対象（未婚者も含む）

■ 0人 ■ 1人 ■ 2人 ■ 3人以上 ■ その他 ■ 特になし  
※18歳～40代の方が対象（未婚者も含む）

○理想とする子どもの数

0人	7.3%
1人	8.5%
2人	55.1%
3人以上	27.9%

○現在のお子さんの数とこれから予定している子どもの数の合計

0人	26.4%
1人	13.1%
2人	41.3%
3人以上	17.3%

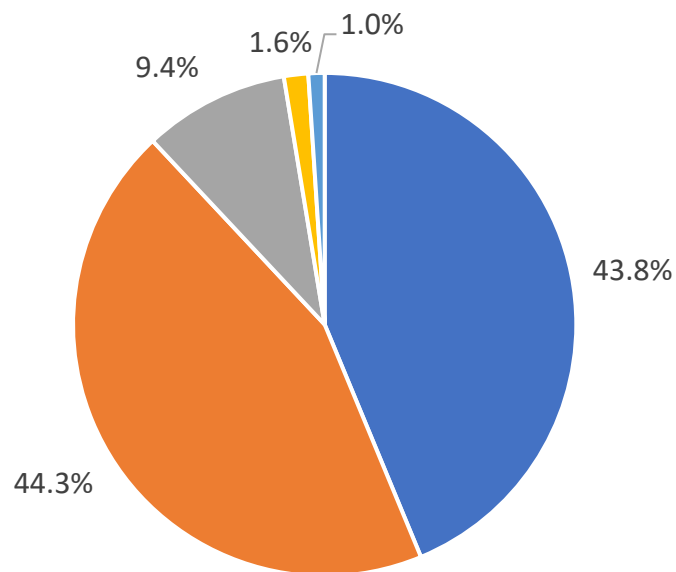
ギャップ	0人	1人	2人	3人以上
ギャ	0人	+19.1%		
チャ	1人	+4.6%		
ツ	2人	△13.8%		
プ	3人以上	△10.6%		

## 2 (4) 4つの視点等について ③結婚・出産・子育ての希望をかなえる

### ◆理想の子どもの数と予定人数【令和6年度市民アンケート結果より】

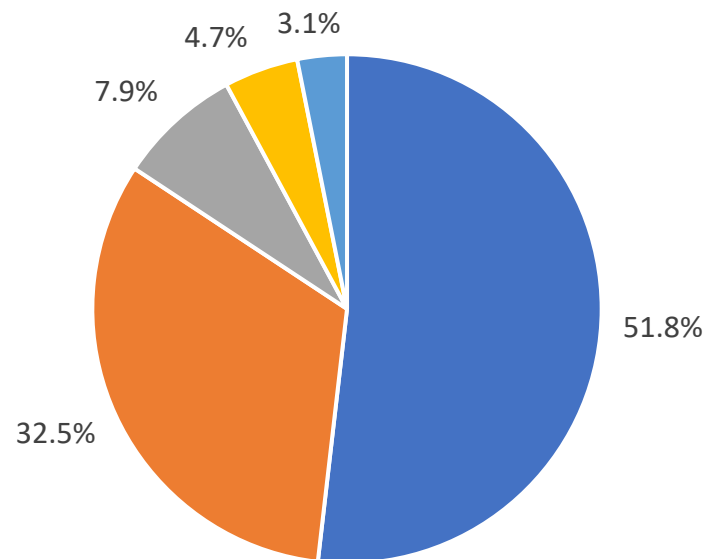
中学生以下のお子さんがある方への質問で、「子育てが楽しい」「(子育て・教育への不安について)身近に相談できる人がいる」と回答する人がいずれも80%以上となっている。

テ 子育てが楽しいと思いますか。



- そう思う
- どちらかといえばそう思う
- どちらともいえない
- どちらかといえばそう思わない
- そう思わない

ト 子育てや教育に不安が生じたとき、身近に相談できる人がいますか。



- 当てはまる
- どちらかといえば当てはまる
- どちらとも言えない
- どちらかといえば当てはまらない
- 当てはまらない

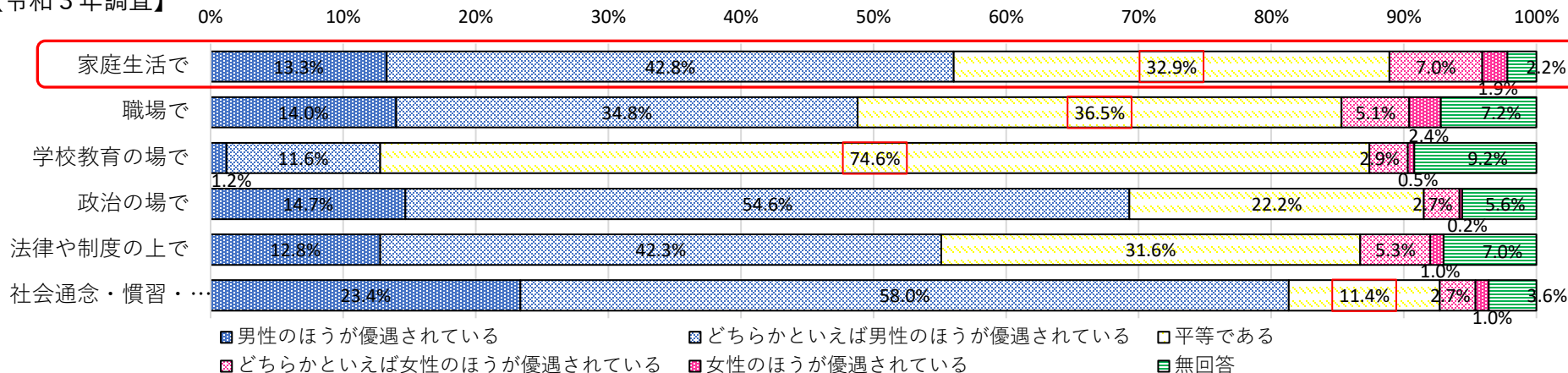
## 2 (4) 4つの視点等について ③結婚・出産・子育ての希望をかなえる

### ◆男女の地位の平等感について【令和3年度・5年度男女共同参画に関する市民アンケート結果より】

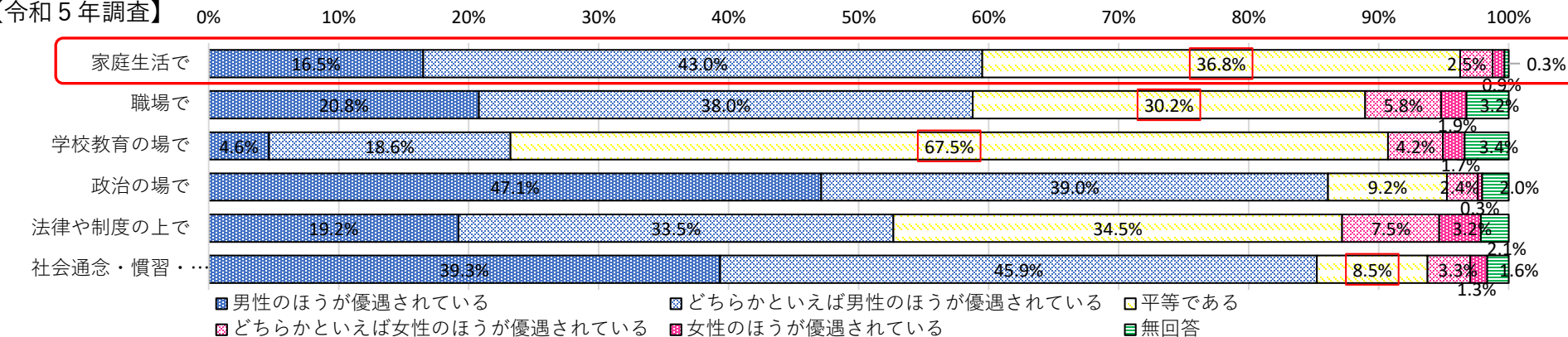
家庭生活では、「平等である」が32.9%から36.8%に増加しているものの、「男性の方が優遇されている」が56.1%から59.5%に増加していることから、家庭生活における男女の地位の平等は、あまり進んでいないと考えられる。

問2 あなたは、次にあげるような分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。

【令和3年調査】



【令和5年調査】



## 2 (4) 4つの視点等について ③結婚・出産・子育ての希望をかなえる

### 現状・課題

- ・未婚率は30代女性が約3割、30代男性が約5割となっているおり、若い女性の人口が少ないことが未婚率上昇の要因と考えられる。
- ・市民アンケート結果から、男性は30代以降も45%以上の方が結婚を希望しているものの交際相手が10%台しかいなく、「結婚するつもりはない」と回答した男性のうち30代以降の約4割が「適当な相手とめぐり合わない」との理由となっている。
- ・市民アンケート結果から、女性は30代では43%、40代では30%で、男性と比べて結婚を希望する率は低く、「結婚するつもりはない」と回答した女性のうち30代以降の約4割が「独身の自由さや気軽さを失いたくない」との理由となっている。
- ・1世帯あたりの子どもの数に大きな変動はなく、子ども女性比率も緩やかに上昇している。
- ・年別出生児の属性では、第1子の数が減少傾向であるが、第2子の数が増加傾向である。
- ・市民アンケート結果から、「理想の子ども数は2人又は3人以上」、子育てに対してポジティブにとらえている人が約8割を占めているが、これから予定している子どもの数が「2人又は3人以上」との回答が58.6%となっており、理想と現実とのギャップが生じている。
- ・市民アンケート結果では、家庭生活における男女の地位の平等があまり進んでいない。

### 市の取組と実績

- 【R2からR5までの進捗などについて】
- ・縁結び推進事業：おせっかいさん引合せ件数（R7目標:200件⇒143件）、成婚累計22件
  - ・不妊治療費助成事業：助成申請件数（R7目標:495件⇒277件）
  - ・3つの無償化（子ども・妊産婦医療費助成事業、0歳児おむつ無償化事業、保育料の無償化・家庭で子育て応援金）
  - ・公立認定こども園整備事業（しんまちこども園）、子ども発達支援施設整備事業（くるむ）
  - ・特別保育事業（心身障害児保育）
  - ・学校給食支援事業（給食費半額）
  - ・小・中学校ICT環境整備事業
  - ・学校給食センター整備事業、西の杜学園整備事業
  - ・朝日山公園整備事業（見晴らしの丘）、海浜植物園リニューアル（ふわふわドーム）

【取組の満足度（市民アンケート結果）】

- ・結婚0.5%、妊娠・出産1.7%、子育て5.3%



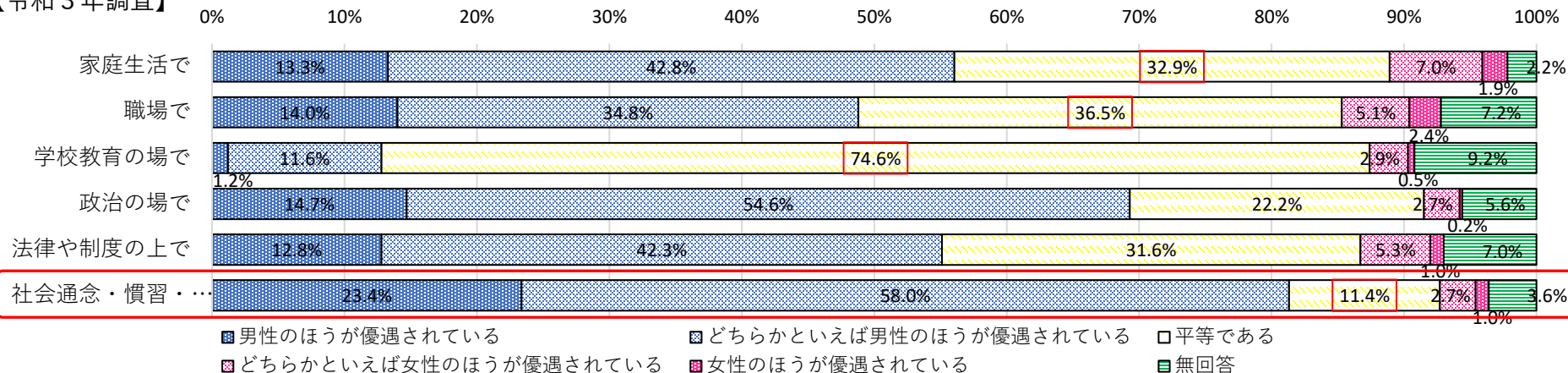
## 2 (4) 4つの視点等について ④魅力的な地域をつくる

### ◆男女の地位の平等感について【令和3年度・5年度男女共同参画に関する市民アンケート結果より】

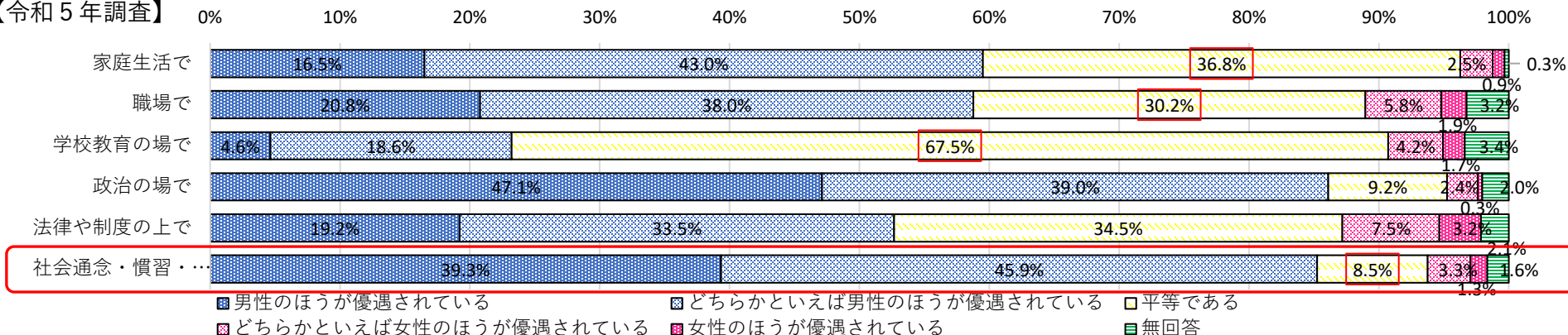
社会通念・慣習では、「男性の方が優遇されている」が81.4%から85.2%に増加、「平等である」が11.4%から8.5%に減少しており、地域での社会通念・慣習における男女の地位の平等は進んでおらず、未だに男性優遇が残っている。

問2 あなたは、次にあげるような分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。

#### 【令和3年調査】



#### 【令和5年調査】



## 2 (4) 4つの視点等について ④魅力的な地域をつくる

### ◆若者の思い【令和6年度氷見高校2年生アンケート結果より】

高校生にとっての「まちなかの充実に必要なこと」は、公共交通の充実、コンビニや飲食店、娯楽施設を増やしてほしいなどの回答が多かった。

問9 高校生活を送るうえで、氷見市内のまちなかで不便だと思っていることや、もっと充実させるために必要だと思うものを自由に記述してください。

- ・ 電車・バスの本数が少ない
- ・ コンビニを増やしてほしい
- ・ 氷見駅周辺にコンビニがほしい
- ・ 遊ぶところが少ない
- ・ ショッピングモールが必要
- ・ 娯楽施設が足りない
- ・ 放課後に食べ歩きできる飲食店がない
- ・ 一人で集中しやすい勉強のできる空間がほしい
- ・ 通学路の除雪をきちんとしてほしい

## 2 (4) 4つの視点等について ④魅力的な地域をつくる

### ◆まちづくりへの思いについて【令和6年度市民アンケート結果より】

雇用や地域交通、移住・Uターン、商工業、結婚に対して重要だと考える人が多いが、満足度は低くなっている。食文化・食育、公園整備・景観、芸術・文化、自然環境、スポーツに対して重要だと考える人は少ないが、満足度は高くなっており、朝日山公園（見晴らしの丘）や芸術文化館の整備、春中ハンドの開催のほか、氷見市が持つ地域資源への満足度の表れではないかと考えられる。

○設問ケ まちづくりで重要な分野は？

順位	選択肢	割合
3	15 雇用	9.7%
6	7 地域交通	7.4%
7	9 移住・Uターン	6.2%
10	14 商工業	3.3%
11	18 結婚	2.8%
15	12 食文化・食育	1.7%
17	5 公園整備・景観	1.6%
20	23 芸術・文化	1.3%
21	8 自然環境	1.2%
24	24 スポーツ	0.9%

○設問コ まちづくりに対して満足している分野は？

順位	選択肢	割合
1	8 自然環境	16.2%
2	12 食文化・食育	12.2%
3	5 公園整備・景観	8.6%
6	23 芸術・文化	6.9%
10	24 スポーツ	4.2%
16	7 地域交通	1.6%
19	9 移住・Uターン	0.9%
24	18 結婚	0.5%
27	14 商工業	0.2%
29	15 雇用	0.1%

※重要度と満足度の増減割合の上位5つずつを抜粋

## 2 (4) 4つの視点等について ④魅力的な地域をつくる

◆区域別まちづくりへの思いについて【令和6年度市民アンケート結果より】  
まちづくりへの思いについて、区域ごとに分析したところ、次のような特徴が見られた。

### 市街地（朝日丘、東）

○「防災・減災」 **重要だと思う人の割合が市全体よりも高い**一方で、**満足している人の割合が市全体より低い**

能登半島地震による被害が甚大な地域であり、沿岸で津波からの避難路の確保など、防災・減災に対する関心が高いものと考えられる。

### 南條（窪、柳田、園、宮田）

○「消防・救急救助」 **重要だと思う人の割合が市全体よりも高く、満足している人の割合も市全体より高い**

氷見消防署柳田出張所の整備により、消防・救急救助に対する満足度が上がったことが考えられる。

○「観光」 **重要だと思う人の割合が市全体よりも高い**一方で、**満足している人の割合が市全体より低い**

この地域において、観光資源となる素材が多くある中で、JR氷見線の駅もあることから、観光での伸びしろへの期待があると考えられる。

### 北部（八代、阿尾、藪田、宇波、女良）

○「防災・減災」 **重要だと思う人の割合が市全体よりも高い**一方で、**満足している人の割合が市全体より低い**

能登半島地震による被害が甚大な地域であり、沿岸で津波からの避難路の確保など、防災・減災に対する関心が高いものと考えられる。

## 2 (4) 4つの視点等について ④魅力的な地域をつくる

### 現状・課題

- ・市内全地区で高齢化率が上昇している。また、市街地での急激な人口減少、中山間地域での高齢化が加速している。
- ・市民アンケート結果では、社会通念・慣習における男女の地位の平等が進んでいない。
- ・高校生アンケート結果では、「まちなかの充実に必要なこと」は、公共交通の充実、コンビニや飲食店の充実、娯楽施設の充実が必要との回答が多かった。
- ・市民アンケート結果では、雇用や地域交通、移住・Uターン、商工業、結婚に対して重要だと考える人が多いが、満足度は低くなっていることから、まだまだ取組を進める必要がある。
- ・市民アンケート結果では、文化・食育、公園整備・景観、芸術・文化、自然環境、スポーツに対して重要だと考える人は少ないが、満足度は高くなっており、朝日山公園（見晴らしの丘）や芸術文化館の整備、春中ハンドの開催のほか、氷見市が持つ地域資源への満足度の表れではないかと考えられる。

### 市の取組と実績

#### 【R2からR5までの進捗などについて】

- ・持続可能な地域づくり支援事業：地域づくり協議会の設置数（R7目標:18地区⇒15地区）
- ・市民の健康意識の醸成事業：特定検診受診率（R7目標:60%⇒49.3%）
- ・高岡市・氷見市消防広域化事業：救急覚知から現場到着までの時間（R7目標:7.2分⇒7.5分）
- ・生活路線バス維持対策事業
- ・NPOバス運営推進事業
- ・城端・氷見線地域交通総合連携事業（再構築実施計画：新型鉄道車両の導入、運行本数の増、両線の直通化、交通系ICカード対応改札機設置など）
- ・芸術文化館整備事業：年間利用者数（R7目標10万人⇒87,083人）
- ・協働のまちづくり推進事業
- ・おらっちゃ創生支援事業：取組件数（R7目標20件⇒13件）

#### 【取組の満足度（市民アンケート結果）】

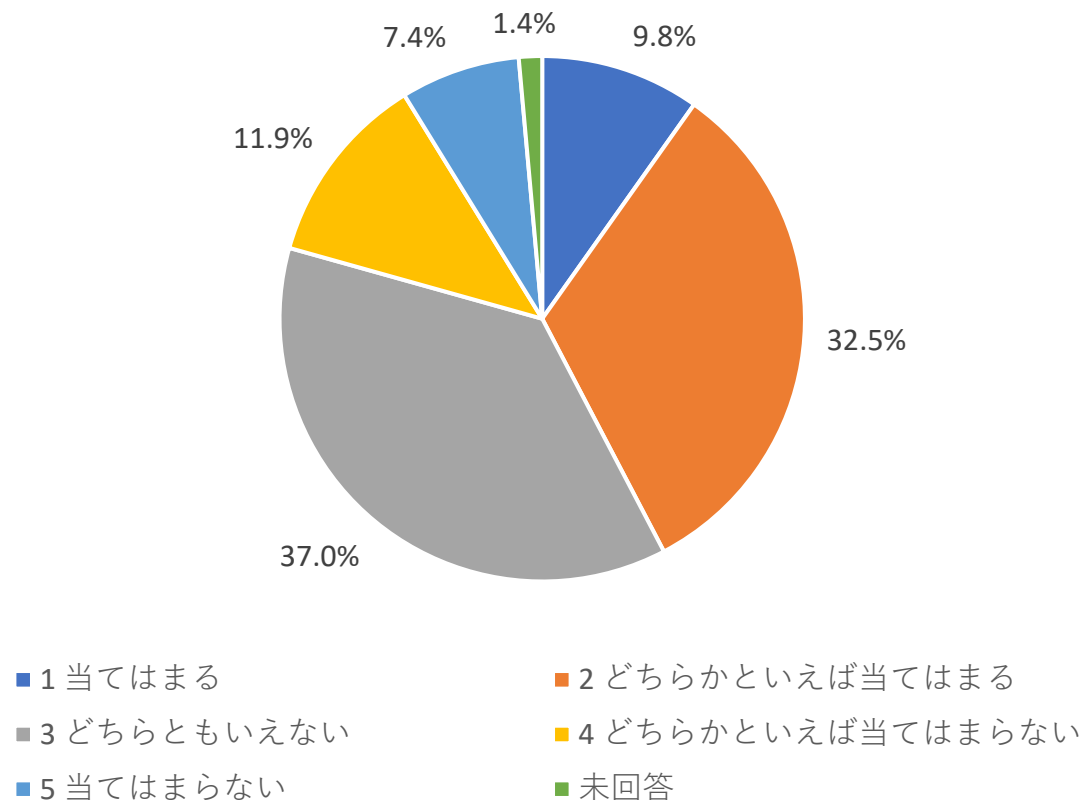
- ・消防・救急救助7.4%、福祉・介護4.5%、医療・健康4.8%、公園整備・景観8.6%  
インフラ（道路・水道等）3.3%、地域交通1.6%

## 2 (4) 4つの視点等について ⑤横断的な取組

### ◆多様性を認め合える社会づくり意識【令和6年度市民アンケート結果より】

「地域において、お互いの人格・個性・多様な生き方などが尊重されていると思いますか」の問いに対して、「当てはまる」と回答する人が42.3%、「当てはまらない」と回答する人が19.3%であり、地域におけるアンコンシャスバイアスが依然として残っていると考えられる。

キ 地域において、お互いの人格・個性・多様な生き方などが尊重されていると思いますか。

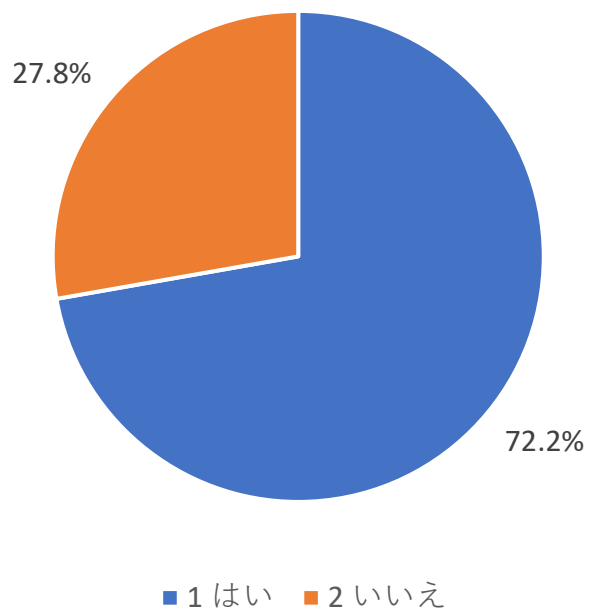


## 2 (4) 4つの視点等について ⑤横断的な取組

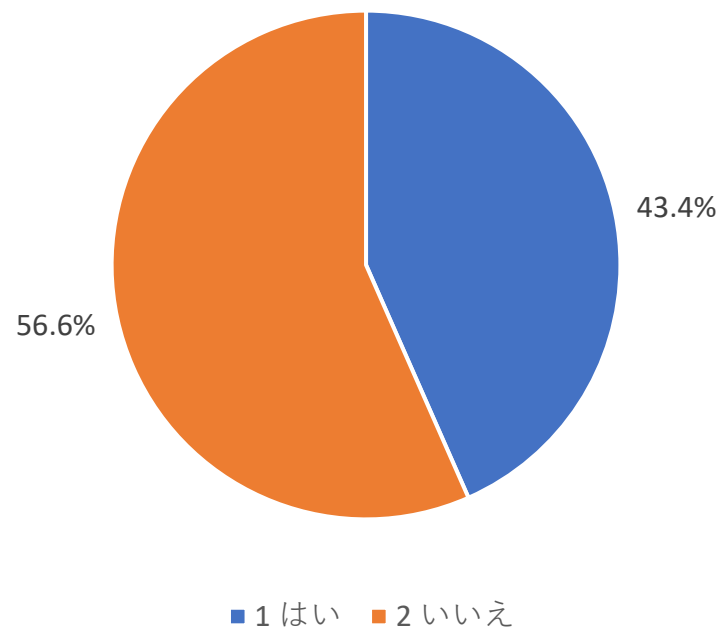
### ◆SDGsへの意識【令和6年度市民アンケート結果より】

「SDGs（持続可能な開発目標）という言葉を知っていますか」の問いに対して、「はい」と回答する人が72.2%であるが、SDGsを実践している人は43.4%にとどまっている。

サ SDGs（持続可能な開発目標）  
という言葉について知っていますか。



シ SDGsを実践していますか。



## 2 (4) 4つの視点等について ⑤横断的な取組

### 現状・課題

- ・SDGsは、人類及び地球の持続可能な開発のための2030年までに達成すべき課題と具体的な目標であり、第3期総合戦略を進めるにあたっては、SDGsの達成を目指す必要がある。
- ・2015年に合意されたパリ協定における目標を共有し、豊かな自然環境や美しい景観が暮らしに溶け込んだ魅力あふれるまちを次世代に引き継いでいくため、2050年までに二酸化炭素排出量を実質ゼロするための取組を推進する必要がある。
- ・人口減少や少子高齢化をはじめとした社会課題の解決に加え、モノやサービスの利便性を高めるとともに産業や生活などの質を飛躍的に向上させるため、DXを推進する必要がある。
- ・家庭や社会の急速な変化に伴い、あらゆる機会を通じて人権が尊重される社会の実現に向けて取り組みことが求められている。また、社会通念・慣習・しきたりでは、依然として男女の役割に固定的な考えが残っており、アンコンシャス・バイアスの解消を図る必要がある。

### 市の取組と実績

#### 【R2からR5までの進捗などについて】

- ・SDGs推進事業：パートナー登録者数（個人46、企業・団体等86）
- ・エネルギー構造高度化実証事業
- ・地域エネルギー活性化事業
- ・デジタル化推進事業
- ・SNS情報発信強化事業
- ・男女共同参画プラン推進事業
- ・アンコンシャス・バイアス解消事業

#### 【取組の満足度（市民アンケート結果）】

- ・脱炭素・エネルギー0.2%、人権尊重・多文化共生0.5%